

来舶清人研究ノート

— 附 「来舶清人参考文献」 「来舶清人一覧表」

唐 権
劉 建輝
王 紫沁

一、カテゴリーとしての来舶清人

来舶清人という、今や一部の美術史家と古美術愛好者の間でしか通用しない用語がある。一昨年（平成三十年）に長崎歴史文化博物館で「来舶清人の芸術」という特別の展示コーナーが設けられた故、そこではじめてこの四文字に出くわした人もいるだろう。同展示のネーミングからも推察できるように、清朝の頃に大陸から日本に渡航した中国人の中で、優れた教養を持っている一括りの人たちに對する総称として使われている。辞書には採録されていないが、立派な和製漢語である。

安永六年に刊行された『元明清書画人名録』（彭城百川纂修、高

芙蓉・木村兼葭堂・鳥羽希聡補訂）に、「清人来舶」という項目がすでに立てられている。従つて、この用語の起源は、遅くとも十八世紀後半に遡れよう。確証はないが、海外との交流の多さや見聞の広さなどから推測して、この項目を考案したのは、おそらく兼葭堂あたりではなかろうか。とにかくこの四字熟語は江戸時代の人によつて創出されたもので、彼らの発想による概念の結晶だと言つてよい。

さて、「清人来舶」の項目に名前が挙げられているのは、一体どういう人たちだろう。周知のように、鎖国時代の日本に來られるのは、主として唐船貿易に携わる清朝商人と同乗の乗組員で、それから少数の船客であつた。来舶清人の大半は、すなわちこの面々から選ばれた者に他ならず、中でも多かつたのは、正船主（船

頭)や副船主(脇船頭)、それから財副(筆記勘定役)といった肩書きの持ち主であった。

別の言い方をすると、カテゴリーとしての来船清人は、当人の社会的地位を反映する身分や職業によるものではなく、純粹に詩文や書画などに精通するか否かという、学芸の造詣を基準にして選ばれた清人渡航者の集合、というふうに理解できよう。日中両国間の長い交流史の中で、高僧や士大夫といった教養層の人物が大陸から渡航して、日本で礼遇を受けた事例がよく見られるが、大陸の文壇では無名に等しい海商とその周辺の人物が文化面で高く評価されたことは、江戸中期以後に見られる一つの顕著な現象であると言つてよい。あるいは、来船清人の登場によつて日中文化交流の新生面が開かれたとも言えるかもしれない。

そして彼らの中から有能な人物が輩出したことも、よく知られている。花鳥画の世界に新しい風を吹き込んだ沈南蘋をはじめ、文人画の「来船四大家」(伊孚九、張秋谷、費晴湖、江稼圃)、漢詩文の江芸閣、朱柳橋、沈萍香など、枚挙に遑がない。中でも江芸閣のような傑物が登場するや、「当時の漢学者は皆な争て江に趨り、江と一席の語を交へ、一篇の詩を唱和するを以て非常の功誉となせしなり」と言われるほど、同時代の日本文壇で大きな旋風を巻き起こしたものであった。¹⁾ 江芸閣らが生きた清朝中期の中国は、「万馬齊しく暗ずるは、可哀を究む」(龔自珍『己亥雜詩』)と言わ

れるほどの閉塞的な時代であり、国内で雌伏するしかなかった彼らが、海外へ飛び出したことで各々の才能を大いに開花させたという現象は、注目に値する。

来船清人ブームは江戸中期の頃から出現し、江稼圃兄弟の登場などにより、文政天保期にそのピークを迎えた。以後、徐々に下火になっていくが、完全に冷めるまでは、もう少し時間を要した。というのは、幕末明治期に入ると、詩文書画の技を奇貨として、東京・大阪などの大都市で活躍の場を見出そうとする清朝の書画家たちが、新たに登場してきたからである。彼らもそれぞれの活躍により、また来船清人として歓迎されていた。結局、来船清人が歴史の表舞台から完全に消えるのは、十九世紀末まで待たなければならなかった。

ちなみに、江戸中期から戦前にかけて、来船清人の意味に近い用語が他にも多く作られている。「来船人」、「来船諸子」、「華士東遊」、「来船唐人」、「来船清朝人」などがその例であり、あるいは単に「来船」の二文字を使うケースも散見する。しかし、来船清人の活躍を物語るこれら類義語の存在は、戦後になると、次第に忘れ去られていった。そのためか、一九九〇年代以降、「文人清商」のような、ややぎこちない用語を提唱する研究者も現れている。²⁾

ところで、来船清人に対する数多の評価を見ると、必ずしも芳

しいとは言えない。単純にいうと、来舶清人が持つ学芸の実力に注目するか、それとも彼らの身分や職業を判断材料にするかによって、評価が分かれたのである。彼らの活躍を肯定的に捉えたのは、古賀十二郎を代表とする長崎郷土史の研究者たち、および田中豊蔵、鶴田武良など一部の美術史家であり、冒頭に触れた「来舶清人の芸術」の展示も、言わずもがなその延長線上にある。

一方、否定的な見解を主張したのは、主として戦前の文芸評論家たちであった。例えば森田思軒は『頼山陽及其時代』の中で頼山陽ら「我が文化文政の諸家」が江芸閣のような「船のり商人の前に拝手して文を問ひ益を乞ふ」光景を想像して、「豈亦た一幅の好ポンチならずや」と皮肉の言葉を送っている。このような見方は、当然ながら決して思軒一人のものではない。来舶清人の学芸が取るに足らないもの、などの趣旨で書かれた文章に接する度に、思軒流の認識が近代日本の学界で如何に深く浸透していたかを思い知らされる。³⁾

来舶清人に関する研究は、長らくなおざりにされてきた。彼らの中で名を後世に残した人物は、果たしてどのぐらい数えられるか。このような素朴な疑問から出発して、我々はまず基礎データの整理作業に取り組んだ。疑問の背後には、次の問題意識もある。すなわち来舶清人という文化人集団の存在を無視して、近世東アジアにおける文化発展の歴史を把握することは、果たしてできる

のか、ということである。答えが否であれば、彼らの足跡を追い、それぞれの人物像を浮き彫りにし、日本渡航の経緯、文化活動の実態と影響などを実証的に究明することは、日中文化交流史研究において、間違いなくやらねばならない重要課題となってくる。

附録の来舶清人参考文献と一覧表は、いわばその中間報告である。不完全だと承知の上で、とりあえず現段階で把握した情報を提示して、博雅の教示を仰ぎたい。多くの研究者に活用されることがあれば、むろん望外の喜びである。

二、来舶清人言説の系譜

江戸中期から戦前にかけて、来舶清人一覧が含まれる人名録は多く作られた。今や来舶清人を知る上で不可欠な資料となっているが、そこには統一した基準がなく、統計の結果もまちまちである。以下、これらの記録を三つの系統に分けて、来舶清人が如何に位置付けられたかについてその系譜を概観する。

来舶清人一覧表が最初に現れたのは、すでに触れたように、『元明清書画人名録』である。書名の通り、これは中国人書画家の人名録であり、「清人来舶」の項目が同書の最後に出ている。編者はそこで人物の名前をイロハ順で挙げていくが、「伊海イカイ、字孚九、號莘野、又號匯川、又號也堂。呉郡人。書画」とあるように、

一人の人物に関して、人名、出身地および得意分野という順で紹介する。ちなみに、「清人来舶」の項目では計百二十二名が数えられる。

『元明清書画人名録』の記述が端的に表しているように、「来舶清人」というのは、はじめは江戸時代の日本人が中華王朝の「書画家」という大きなカテゴリーをイメージする際に、その下位にある概念として創出したものである。当時の長崎には唐通事や唐絵目利きなどの専門職があり、対外貿易と唐人の管理、唐船から持ち渡された中国書画の鑑定などの業務を担当していた。清人の応対をすることは彼らの日常であるが、やがて熊斐や劉梅泉のような、清人に師事して一家を成した人物が現れた。つまり、自分の師友たる渡来の清人たちを中華世界の「書画家」として持ち上げ、合わせて自身の文人としての地位を高めようという動機が、一部の長崎文人にはあつたかもしれない。「清人来舶」に記載されている人名リストは、もともと唐通事あるいは唐絵目利きの人たちによつて作られたもので、何らかの機縁で流出し、後に『元明清書画人名録』に編入された、と推測される。

『元明清書画人名録』は出版後、読者の間で人気が出たらしく、続編も作られた。幕末の漢学者・宮崎青谷が編んだ『清書画人名続録』（天保九年序）がその一つであるが、同書の凡例に「余別ニ元明清補遺ノ編アリ、来舶ヲ其末ニ附ス」と述べている。残念な

から筆者はこの「元明清補遺ノ編」の所在をまだ突き止めておらず、後考を俟つ。

それから明治時代に入ると、まず玉置環斎輯『清人芸林姓名捷覧』（明治十年）という書が現れている。同書の第十一冊に「華士東遊附録」という題が見え、中には「来舶」なる項目があり、そこで伊海以下計九十四名がリストアップされている。さらに明治十三年になると、『清朝書画人名一覽』（河村亀治郎編）なる番付表も上梓されており、表中に四十七名の「来舶人」が挙げられている。

来舶清人を大陸の書画家として位置付ける点において、上の刊行物は共通している。このような捉え方は、しかし日本では主流ではなかった。というのは、来舶清人のリストが掲載される出版物の中で、むしろ日本人の書画家や文化人を紹介する人名録のほうが多いからである。この系列に属する刊行物は、管見の限り、『和漢書画一覽』（寛政十二年）が最初である。同書に来舶人九十一名が挙げられており、そのうち六十七名が日本の「書家部」に分類され、他の二十四名が日本の「画家部」に分類されている。『和漢書画一覽』は幕末に至るまでたびたび再版され、広く読まれた書物である。そのためか、明治期に出版された日本人書画家の番付表にも、実は多くの来舶清人が入っている。例えば「古今名家書画景況一覽」（明治二十一年）は「来舶清朝人」二十七名、「古今

名家新撰書画一覽」(明治二十二年)は「来船清朝人」四十名、「現在今世家書画一覽」(明治二十四年)は「来船清人」十八名を、それぞれ挙げている。

それから『和漢書画一覽』の流れを汲んだ単行本を挙げてみると、朝岡興禎著・太田謹増補『増補古画備考』(明治三十六年)、木田寛栗『新撰懐中書画便覧』(大正四年)、南海山人『古今書画鑑賞便覧』(大正六年)、小林勉『古今書画鑑賞の知識』(大正十五年)などがあるが、中でも『増補古画備考』は書中の前後三カ所に、重複を除けば百三十五名を挙げている。来船清人の人名録として、これは最多記録である。

これらの番付表や単行本の中で、来船清人はいは「本朝能画」や「風流俳人」と肩を並べ、あるいは「光琳派」や「土佐派」などと隣合わせになっている。要するに日本国内の一流派と見做されているのである。こうした捉え方について、おそらく江戸後期から盛んに行われた書画展観会との間に、何らかの関わりがあるように思われる。当時の書画展観会目録には来船清人が日本の諸流派に混じり込んで、日本人の名家たちと一緒に取り上げられているものがあるからである。

最後に、独自の立場で来船清人を捉えたものとして、長崎の書画と学芸を対象とする一連の書物も忘れてはいけない。この系列には、神戸市立博物館蔵『来船画家諸子稿本』(写本、江戸後期成

立)をはじめ、荒木千洲『続長崎画人伝』(嘉永四年序)、西琴石『長崎古今学芸書画博覧』(明治十三年序、大正八年刊)、小川水路『崎陽関係画家便覧』(昭和九年)、古賀十二郎『長崎画史彙伝』(昭和九年序、同六十年刊)などがあるが、書名からも分かるように、来船清人はここで長崎の郷土文化と密接に関係する存在とされているか、もしくは長崎文化の一部として組み込まれている。中でも『長崎古今学芸書画博覧』のように、来船清人と日本人との区別をあえてせず、両者をランダムに配列するものもあれば、『崎陽関係画家便覧』のように、長崎派絵画の流派を軸に、来船清人と日本人画家との師弟関係を強くアピールするものもある。

以上見てきたように、来船清人についての統計記録は、過去の日本では数多く作られたのである。これとは対照的に、戦後になると来船清人一覧表らしきものは一編たりとも作られていない。唯一、長崎県教育委員会編『中国文化と長崎県』(昭和六十四年)に「長崎来船中国文化人一覽」が設けられているが、厳密にいうと、これは来船清人のみを対象とした統計ではない。この点を見ても、来船清人に対する日本人の関心は、やはり戦前に比べて著しく後退してしまった、と言わざるを得ない。⁵⁾

三、来舶清人の外延

清朝時代を通して、日本渡航の経験を持つ中国の文化人は、数多くいた。来舶清人として分類されたのは、その一部に過ぎない。実際、来舶清人とそうでない人物との線引きについて、過去の人名録はそれほどはっきりしていない。今回、新しい一覧表を作るにあたり、用語の適用範囲を明確にする必要があつた故、この問題に関する筆者の考えを、あらためて述べておきたい。

まず気になつたのは、明の遺民たちである。『元明清書画人名録』『清人来舶』や『続長崎画人伝』『来伯諸子』などの人名録に、朱之瑜（舜水）の名が挙げられているからである。江戸時代の人々は特に意識しなかつたようだが、明人の舜水を来舶清人として見ていいのか、という問題がある。今の感覚で言うところ、清朝の臣民になることを拒否して日本に逃れたこの人物を、清人と見るのはむろん適切ではない。それに、舜水は数種類の全集まで編まれた高名な人物であり、関連の研究もすこぶる充実している。今さら来舶清人として見直す必要性もなからうと考えて、新しい一覧表には舜水の名を削除することにした。当然ながら、陳元贊、東皐心越、張非文など他の遺民に対しても同断である。また、『長崎名勝図絵』の中で「明人」と明記されている林上珍、何倩甫、孫静

澗、沈苕園ら数名の詩客も、一覧表から割愛されることになつた。明の遺民たちとはほぼ同じ頃に、日本社会で旋風を巻き起こした中国人グループは、もう一つあつた。すなわち隠元隆琦が率いる臨済宗黄檗派の僧侶たちであるが、過去の人名録では彼らはしばしば「帰化溜流」や「唐僧」などに分類され、来舶清人グループとはっきり区別されている。この事実を鑑み、唐僧たちの周辺で活躍した陳賢、楊道真、范道生などの仏工や画家に対して、やはり来舶清人と見なさず、黄檗派の流れの中で捉えるべきだと考える。

さらにもう一つ、明治四年（一八七二）に「日清修好条規」が締結された後、外交官として日本へ赴任した清国のエリート官僚たちもいた。彼らは公使館と領事館を舞台として外交活動を展開させながら、明治の漢学者たちと積極的に詩文の唱酬を交わしていた。『清人芸林姓名捷覧』には何如璋、張斯桂、沈梅燮の名が見え、『長崎古今書画学芸博覧』には余元眉の名が見えるが、共にこの系列に属する人物である。しかし、彼らは来舶清人との間にやはり一線を画すべきであり、いわゆる「文人外交官」のカテゴリーに入れた方が妥当であろう⁶。

概していうと、清朝時代に来日した文化人の中には、明の遺民、唐僧とその周辺の画師や技工、さらに外交官僚などもいたが、来舶清人とは別個の存在として考えたい。後者はあくまで中国南部

の江蘇、浙江、福建、広東諸省から来た民間人であり、個々人の名声が中国国内ではあまり聞こえず、異国の日本で人気を博したという共通点を持つ。

また、来船清人という用語には、狭義的な使い方と広義的な使い方がある、という点も指摘したい。前者の場合は、多くの書画家人名録が示しているように、もっぱら書画の名家という意味で使われている。他方、日本を訪れた清人たちが活躍した領域といえば、書画の世界のみならず、医療をはじめ、騎射、清楽、煎茶、狂歌など、実に多岐にわたるものであった。『長崎古今学芸書画博覧』のように、「学芸」と「書画」の両方を重要視する人名録もあるが、こういう捉え方はむしろ例外的である。学芸に優れた清人の存在にも目を配る必要があると考え、新しい一覧表は来船清人を広義的に捉え、過去の一覧表に載っていない名前を増補することにした。

ところで、日本に遊んだ清人の中には、優れた教養の持ち主でありながらも日本人との交流に関する記録を残していない人もいた。もっぱら中国側の文献に見られる名前だが、『海国聞見録』を著した陳倫炯、『東洋客遊録』を著した張禹若、「群書を博覧し、兼ねて岐黄の術を善す」と言われている江芸閣の父・江岐発、海外へ遠遊して「日本諸島の勝を極めた」詩人の王傑（竹齋）などは、このケースに当たる。⁷ 来船清人の候補ではあるが、日本人との交

流に関する事実が突き止められるまで、その名を新しい一覧表に掲げることが控えることにした。

他方、日本の文壇と種々の交流を持ちながらも、ついに日本の土地を踏むことがなかった人たちの存在も、忘れてはいけない。頼山陽『日本楽府』に賛辞を送った書家の銭泳、ベストセラー『清嘉録』の作者である顧鉄卿、平湖在住の文人沈浪仙、日本貿易の「総商」（二元締め）を務め、かつ文人の誉れも高い王元珍などがその例である。中でも王元珍の場合、一度は日本を目指して渡海を試みたものの、天候に阻まれて失敗に終わっている。⁸ 「来船」という条件を満たしていない故、彼の名を新しい一覧表に掲げなかったが、来船清人の仲間でもあり、彼らと同等あるいはそれ以上の活躍を見せていた人物であったことは、疑いを入れない。

王元珍の例とは逆に、もともと日本とは縁のなかつた人たちが、偶然の海難事故で日本に流され、日本人と文字の縁を結んだケースもあつた。すなわち漂流民であるが、例えば寛政八年に仙台藩に漂流した陳世徳と林光裕の場合、二人は現地の文人たちと盛んに唱和し、後に『陳林詩集』という詩集までが編まれている。希有なケースではあるが、この二人は来船清人として見るべきであろう。

いずれにせよ、一口に来船清人と言っても、その中には案外さまざまなケースがあり、決して単純な存在ではなかつた。そう

いった多様性に目を配りながら、一人ひとりの名前を拾ってみた結果、三百五十余名を集計することができたのである。かつて来船清人と呼ばれた男は、かくもいたのか。正直、人数の多さは我々の予想を遥かに越えている。江戸期から明治期にかけての日中文化交流について、どうやらまた大いに再検討しないとイケないようである。

注

- (1) 森田思軒『頼山陽及其時代』、民友社、明治三十一年、一六四頁。
- (2) 佐々木剛三監修、宗像健一著『田能村竹田』（大分県先哲叢書）、大分県教育庁文化課編集、大分県教育委員会発行、平成五年、二二三頁。田本政弘「田能村竹田の海外情報入手」、岩下哲典・真栄平房昭編『近世日本の海外情報』所収、岩田書院、平成九年、一七三頁。
- (3) 森田思軒『頼山陽及其時代』、一六四頁。来船清人に対する近代日本人の態度について、拙稿「江芸園形象在近代日本の変遷」を参照されたい。北京語言大学主弁、閻純徳主編『漢学研究』第二十八集、二〇二〇年七月、四三六～四四二頁。
- (4) 彭城百川纂修、高芙蓉・木村兼葭堂・鳥羽希聡補訂『元明清書画人名録』下冊、柳原喜兵衛、安永六年、六十丁。
- (5) 本稿を校正する段階で、錦織亮介氏の労作「江戸時代の長崎来船画人について」（令和二年七月三十一日発行）を知った。急いで参考文献に入れたが、詳細に吟味する余裕がなかった。同論文中の「江戸時代長崎来船画人一覧」は、江戸時代に限って長崎来船画人に対する本格的な

統計である。本稿の附録と合わせてご参照されたい。

- (6) 「文人外交官」は、張伯偉氏の命名である。張伯偉『文人外交官の明治日本』、柏書房、平成十一年、七頁。
- (7) 張禹若の名は、翁広平『吾妻鏡補』に見える。江岐発を含む蘇州江氏一族の来船清人について、唐権の別稿「蘇州蘭陵江氏家族来船清人考」（未刊）で紹介したい。王傑について、盛珂編『竜湫嗣音集』（拜石山房、道光二十五年、卷三）に「王傑号竹齋。君曾浮海遠遊日本。窮日本諸島之勝」云々と紹介されている。
- (8) 沈浪仙について、亀田一邦論文「沈浪仙の和詩収集と長崎文人 福地苟庵『蕪稿』とその周辺」が詳しい。亀田一邦著『幕末防長儒醫の研究』所収、知泉書館、平成十八年、三〇一～三三三頁。王元珍についての本格的研究がまだないが、次の二篇が参考に値する。陳振濂「江戸時代中日之間以詩唱酬之一格」、陳振濂著『維新…近代日本芸術観念の変遷 近代中日芸術史実比較研究』所収、浙江古籍出版社、二〇〇六年、六十六～七十頁。吳鴻春「嚶其鳴兮 求其友聲 中日詩人唱酬之一頁」、吳兆路ほか編『中国学研究』第三輯、中国書籍出版社、一九九九年、一六五～一七八頁。

附録一 来舶清人参考文献

本稿附録二の「来舶清人一覧表」を作成するにあたり、過去の人名録をべー
スとしながら、さらに日中両国に現存する関連文献を、可能な限りアクセス
してみた。表の出典欄に出ている文献の書誌情報を、ここで列挙する。

書誌情報の表記について、日本側の文献はすべて年号で統一した。これに
対して、中国側の文献は、近代以前（一九一〇）のものは年号を用い、それ
以後のものは西暦を用いることにした。

なお、引用の便をはかるため、一部の文献は略号の表記を利用している。略
号は、記号「↓」の後に記している。

日本側の史料

1. 松井元泰『古梅園墨譜』四巻、刊本、享保元年序。松尾良樹訳注・解説『古
梅園墨譜』影印輯録、(奈良 株式会社古梅園、平成五年。
2. 周岐来、朱来章、陳振先『享保十一年八月十九日南京船所載来唐醫周朱
等復言』、写本一冊、享保十一年成立、国立国会図書館白井文庫蔵。↓周
朱等復言
3. 陳振先『崎陽採葉録』、写本一冊、大庭脩私蔵。大庭脩編著『享保時代の
日中関係資料一』朱氏三兄弟集 近世日中交渉史料 三』（以下『享保
時代の日中関係資料二』と略す）輯録、(吹田) 関西大学出版部、平成
七年。
4. 朱佩章『偶記』、写本一冊、康熙五十一年序、西尾市岩瀬文庫蔵。『享保
時代の日中関係資料二』影印。
5. 深見久大夫、彭城藤治右衛門、朱佩章『仕置方問答書』、写本一冊、享保
年間成立、国立公文書館蔵。『享保時代の日中関係資料二』輯録。

6. 富田又左衛門、沈大成『唐馬乗方問書』、写本一冊、享保年間成立、国立
公文書館蔵。『享保時代の日中関係資料二』輯録。
7. 陳采若ほか著、成嶋仙蔵補写『唐馬乗方補遺』、写本一冊、寛政年間成立、
国立公文書館蔵。『享保時代の日中関係資料二』輯録。
8. 陳采若著、清水永左衛門和解『対語驥録』、写本一冊、享保年間成立、国
立公文書館蔵。『享保時代の日中関係資料一』輯録。
9. 朱来章著、栗本鋤雲評『南京朱来章治験』、写本一冊、享保年間成立、国
立公文書館蔵。『享保時代の日中関係資料二』輯録。
10. 荻生惣七郎・深見久大夫・彭城藤治右衛門・朱佩章『清朝探事』、写本、
宝暦年間成立。『享保時代の日中関係資料二』輯録。
11. 『馬医師唐人療治方書付』、写本一冊、享保十三年成立。『享保時代の日中
関係資料二』輯録。
12. 沈炳『故唐律疏義釈文訂正』、写本一冊、享保十五年成立、宮内庁書陵部蔵。
大庭脩編著『享保時代の日中関係資料三』荻生北溪集 近世日中交渉史
料集 四』（以下『享保時代の日中関係資料三』と略す）影印、(吹田)
関西大学出版部、平成七年。
13. 松井元泰編、松井元英校『大墨鴻壺集』一巻、(江戸) 書肆采真閣繙梓、
小川彦九郎発行、享保十九年。『享保時代の日中関係資料三』影印。
14. 大庭脩輯『沈燮庵遺文』、『享保時代の日中関係資料三』輯録。
15. 趙淞陽『趙淞陽医按』、写本一冊、享保十二年成立、西尾市岩瀬文庫蔵。
16. 牛山香月編『萬里神交』一巻、『藥籠本草』所収、(平安) 書舖柳枝軒梓行、
享保十九年。
17. 松井和泉掾、平野繁十郎『唐人墨製問答之記録』、写本一冊、元文四年成立。
松尾良樹、的場美帆『唐人墨製問答之記録』——「古梅園造墨資料」翻
刻と解題(二)』影印、『古代学』第四号、平成二十四年。
18. 里東白『玄黄印圃』三巻、(大坂) 松村九兵衛製本発行、宝暦八年序、西
尾市岩瀬文庫蔵。

- 19 宋紫石画、副孟義編『宋紫石画譜』三卷、(江戸)須原屋四郎右衛門ほか、明和二年刊。
- 20 長久保赤水『長崎行役日記』、(東武)小倉仁兵衛ほか、文化二年刊。長久保片雲編著、関根七郎訳解『長崎行役日記 付安南国漂流物語清槎唱和集』影印輯録、(土浦)筑波書林、平成六年。↓長崎行役日記
- 21 長久保赤水等『清槎唱和集』、写本、渡邊文写、明和五年序。『長崎行役日記 付安南国漂流物語 清槎唱和集』影印輯録。
- 22 松井元象『古梅園墨譜後編』五卷、安永二年刊。『古梅園墨譜』影印。
- 23 彭城百川纂修、高芙蓉・木村巽斎・鳥羽希庵補訂『元明清書画人名録』二冊、(大坂)称觥堂、安永六年刊。
- 24 周岐来著、城陽秋校『千金要方』二冊、(浪華)柳原喜兵衛、安永八年刊。
- 25 建部綾足『漢画指南』二卷、(江戸)須原屋市兵衛ほか、安永八年刊。建部綾足著作刊行会編『建部綾足全集』第八卷影印、(東京)国書刊行会、昭和六十二年。
- 26 建部綾足『李用雲竹譜』一冊、(京都)錢屋七郎兵衛・梅村宗五郎、明和八年刊。『建部綾足全集』第八卷影印。
- 27 建部綾足『紀行』、中本三冊、青森県立図書館蔵自筆稿本。『建部綾足全集』第五卷輯録。
- 28 内藤東甫編『西行堂集詩歌』、刊本一冊、張府永樂堂、天明元年序。
- 29 森蘭斎『蘭斎画譜』四卷、(江戸)須原茂兵衛ほか、天明二年刊。
- 30 『清朝珍宝渡船記』、写本一冊、国立国会図書館蔵、李傑玲編『日本所藏中日交流漢詩文写本』影印、(合肥)黄山書社、二〇一八年。
- 31 費漢源撰、鈴木芙蓉画『費氏山水画式』三卷、(江戸)須原屋茂兵衛、寛政元年刊。
- 32 方西園画、谷文晁模写『漂客奇賞図』一冊、(江戸)雁金屋清吉、寛政二年刊。大庭脩編著『江戸時代漂着唐船資料集 五 安永九年安房千倉漂着南京船元順號資料』影印、(吹田)関西大学出版部、平成三年。
- 33 十時梅厓『崎陽筆語』、写本一冊、江戸期成立、大阪府立図書館蔵。
- 34 司馬江漢『江漢西遊日記』、天明八年成立。『日本庶民生活史料集成』第二卷輯録、(東京)三一書房、昭和四十四年。
- 35 司馬江漢『西遊旅譚』五卷、(大坂)文栄堂、寛政六年序。
- 36 秋里籬島撰、竹原春朝齋画『和泉名所図会』四卷、(京都)小川多左衛門、寛政八年刊。
- 37 志村時恭・陳世徳『以筆代言』、写本三冊、寛政八年成立、国立国会図書館蔵。李杰玲『日本所藏中日交流漢詩文写本』影印、二〇一八年。
- 38 藤原貞幹『好古日録』二卷、(京都)鶴鶴惣四郎、寛政九年刊。
- 39 山根南溟『南溟先生詩集』三卷、(撰陽)敦賀屋九兵衛ほか、寛政九年刊。
- 40 伴蒿蹊刪補、三熊花顛輯『続近世崎人伝』五卷、(平安)長村太助、寛政十年刊。
- 41 曲亭馬琴『蓑笠雨談』三卷一冊、(名古屋)永樂屋東四郎ほか、享和四年刊。国文学研究資料館鶴飼文庫蔵。
- 42 島津天錫『名山樓詩集 初編』三卷三冊、(京都)林喜兵衛、寛政十一年刊。慶應義塾図書館蔵。
- 43 島津天錫『名山樓詠物百首』一冊、(京都)林喜兵衛、寛政十一年刊。
- 44 葛城輝敖編『和漢書画一覽』一冊、(京都)額田正三郎ほか、寛政十二年刊。
- 45 志賀忍『理齋婦路旅日記』、写本一冊、寛政十二年成立、国立国会図書館蔵。
- 46 陳世徳・林光裕『陳林詩集』一卷、写本一冊、寛政十二年序、国立国会図書館蔵。『日本所藏中日交流漢詩文写本』影印、二〇一八年。
- 47 大田南畝『南畝集(瓊浦集)』、写本一冊、濱田義一郎ほか編『大田南畝全集』第四卷輯録、(東京)岩波書店、昭和六十二年。
- 48 大田南畝『改元紀行』、写本、享和元年成立。濱田義一郎ほか編『大田南畝全集』第八卷輯録、(東京)岩波書店、昭和六十一年。
- 49 『寧波商船漂着雜記』、写本一冊、享和元年成立。大庭脩編著『江戸時代漂着唐船資料集 六 寛政十二年遠州漂着唐船萬勝號資料』輯録、(吹田)

65. 松浦東溪、朱華『贈小野君平七言古風一章朱華詩集』、写本一冊、江戸後
64. 菊舎尼『手折菊』四卷四冊、(京都) 橘屋治兵衛、文化九年序。
63. 小宮山楓軒『西州投化記』三卷、写本、文化九年序、早稲田大学図書館。
62. 田能村竹田『竹田莊詩話』、刊本、文化七年序。大分県教育庁管理部文化課編『大分県先哲叢書 田能村竹田資料集 著述篇』輯録、(大分市) 大分県教育委員会、平成四年。
61. 伊沢蘭軒『客崎隨筆』、写本一冊、国立国会図書館蔵。銭超塵解説『伊沢蘭軒全集』第七冊影印、(大阪) オリエント出版社、平成十年。
60. 大田南畝『瓊浦遺佩』、写本二冊、文化六年成立、国立国会図書館蔵。
59. 大田南畝『杏園閒筆』、写本三冊、享和二年〜文化三年成立、早稲田大学図書館蔵。『大田南畝全集』第十卷輯録、昭和六十一年。
58. 大田南畝『調布日記』、写本三冊、文化年間成立、『大田南畝全集』第九卷輯録、昭和六十二年。
57. 大田南畝『瓊浦雜綴』、文化二年写、『大田南畝全集』第八卷輯録。
56. 大田南畝『瓊浦又綴』、文化六年序、『大田南畝全集』第八卷輯録。
55. 山崎道冲著、伴建尹編次『蘭洲先生遺稿』五卷二冊、(津輕) 稽古館藏活版文化二年刊。
54. 大田南畝『百舌の草茎』、文化元年、『大田南畝全集』第八卷輯録。
53. 宮内庁書陵部蔵。
52. 小川文庵等問、胡兆新答『胡氏筆語』、写本(巻上のみ一冊)、文化元年成立、京都大学附属図書館富士川文庫蔵。
51. 韓天寿縮摹『伊孚九池大雅山水画譜』二冊、涉趣園藏板、(京都) 圓屋源八郎、(江戸) 須原屋茂兵衛、享和三年刊。
50. 石隠編『摺印補正』二卷、(浪華) 河内屋喜兵衛・柏原屋清右衛門、享和二年刊。
49. 関西大学出版部、平成九年。
48. 期成立、島原図書館松平文庫蔵。
47. 三宅橘園『薄遊漫載』五卷二冊、文化九年自序、(京都) 錦花堂發兌、文化十一年刊。
46. 武元登々庵『行庵詩草』六卷、清風閣藏板、(江府) 須原茂兵衛ほか、文化十一年刊。富士川英郎・松下忠・佐野正巳編『詩集日本漢詩』第十二卷影印、(東京) 汲古書院、昭和六十二年。
45. 江芸閣ほか『蘭言雅集』、折本一冊、文化十一年成立、長崎歴史文化博物館蔵。
44. 武元登々庵『古詩韻範』五卷首一卷、(浪花) 群玉堂製本、(京都) 河内屋藤四郎ほか、文化十二年刊。
43. 朝川善庵『清舶筆話』、写本五冊、文化十二年成立、国立公文書館内閣文庫蔵。松浦章編著『江戸時代漂着唐船資料集 九 文化十二年豆州漂着南京永茂船資料』影印、(吹田) 関西大学東西学術研究所、平成二十三年。
42. 劉梅泉(遊龍彦次郎)『自遠録』、写本一冊、文化十二年成立、長崎歴史文化博物館蔵。
41. 頼山陽『西遊稿』二卷、文政元年成立。木梨愛吉輯注『頼山陽全書 詩集』輯録、(広島) 頼山陽先生遺跡顕彰会、昭和七年。
40. 大田南畝『一話一言』、安永八年〜文政三年成立。『大田南畝全集』第十二〜十六卷輯録、一九八七年。
39. 大田南畝『杏園詩集』二卷、(東都) 青雲堂、文政三年刊。『大田南畝全集』第六卷輯録、一九八八年。
38. 大田南畝『杏園集』、写本一冊。『大田南畝全集』第六卷輯録、昭和六十三年。
37. 大田南畝ほか『萍寄唱和』、写本一冊、文久二年序。大田南畝『蜀山人未刊資料集』第二卷影印、(東京) ゆまに書房、昭和五十九年。
36. 野田笛浦『得泰船筆語』二卷、紀藩瓢葉館藏版、江戸後期刊本。田中謙二・松浦章編著『江戸時代漂着唐船資料集 二 文政九年遠州漂着得泰船資

- 料』影印、(吹田) 関西大学出版部、昭和六十一年。
- 78 羽倉簡堂等問、楊啓堂等答『清水筆語』、写本一冊、宮内庁書陵部蔵『筆語雜錄』所収。『江戸時代漂着唐船資料集 二』影印。
- 79 江芸閣・沈萍香ほか『書翰集』、折本二冊、江戸後期成立、長崎歴史文化博物館蔵。
- 80 田能村竹田編『紫川館藏書畫落款譜』、安政五年刊。
- 81 安田蕉庵編『書画展観袖冊』(見返し題『瓊華競秀』)、刊本一冊、文政八年序。後藤憲二編『書画展観目錄集成』影印、(東京) 青裳堂書店、平成二十九年。↓瓊華競秀
- 82 曾占春問、呂宏昭答『呂宏昭藥品答』、写本、文政十年成立、合本『質問志』所収、東京国立博物館蔵。
- 83 市河米庵手輯、市河恭齋縮臨『略可法』二卷、(江戸) 青藜閣、文政十年刊。
- 84 安部竜平編『下問雜載』、写本一冊、文政十一年成立、福岡県立図書館蔵。
- 85 橘南谿『北窓瑣談』八卷、(京都) 菊屋源兵衛ほか、文政十二年刊。日本隨筆大成編輯部『日本隨筆大成』第二期十五輯録、(東京) 吉川弘文館、昭和四十九年。
- 86 勝田献『半齋摘稿』四卷二冊、写本、江戸後期成立、国立公文書館内閣文庫蔵。
- 87 田能村竹田『石山齋茶具図譜』、刊本一冊、文政十二年跋。『大分県先哲叢書 田能村竹田資料集 著述篇』影印並輯録。
- 88 田能村竹田『屠赤瓊々録』、写本二冊、江戸後期成立。『大分県先哲叢書 田能村竹田資料集 著述篇』輯録。
- 89 田辺憲『玄々瓷印譜』二卷二冊、楓竹松園蔵板、序跋彫刻大坂谷清好、(京都) 菱屋孫兵衛ほか、天保二年刊。
- 90 大槻磐溪『瓊浦筆語』、『西遊紀程附録 坤』所収、(京都) 勝村治右衛門ほか、天保二年刊。羽賀詳二解題『近世風俗地誌叢書第二卷 南遊紀行西遊紀程』影印、(東京) 龍溪書舎、一九九六年。
- 91 頼杏坪『春草堂詩鈔』八卷四冊、牛山園蔵板、天保四年刊。
- 92 田能村竹田『山中人饒舌』二卷、天保六年刊。『大分県先哲叢書 田能村竹田資料集 著述篇』輯録。
- 93 菅井梅閑『三界居録』、写本三冊、江戸後期成立、仙台市博物館蔵。
- 94 川原慶賀筆、川原盧谷校『草木花実写真図譜』四冊、(大阪) 前川善兵衛、江戸後期刊本。
- 95 広瀬淡窓『遠思樓詩鈔』二卷、(大坂) 河内屋茂兵衛ほか、天保七年刊。
- 96 『胡兆新治験方』二卷、写本一冊、天保九年成立、京都大学附属図書館富士川文庫蔵。
- 97 梁川紅蘭『紅蘭小集』二卷一冊、梁川星巖『星巖集』所収、(江戸) 須原屋茂兵衛ほか、天保十二年刊。
- 98 西沢一鳳『伝奇作書初編』三卷、写本三冊、天保十三年、西尾市岩瀬文庫。
- 99 陳吉人『豊利船日記備查』、写本一冊、東京都立中央図書館横山文庫蔵。
- 100 松浦章『中国商船の航海日誌——咸豐元年(一八五二) 長崎来航、豊利船『日記備查』について』影印、関西大学東西学術研究所編『関西大学東西学術研究所創立三十周年記念論文集』、(吹田) 関西大学出版部、昭和五十六年。
- 101 朝岡興禎著、太田謹補『増訂 古画備考』、(東京) 吉川弘文館、初版明治三十八年、明治四十五年第二版。↓古画備考
- 102 荒木千洲『続長崎画人伝』、嘉永四年序。『日本画談大観』中編輯録。
- 103 朝川善庵『染我室遺稿』二冊、(京都) 出雲寺文次郎、安政四年刊。
- 104 大島秋琴編、隅田立校『観生居月琴譜』二卷二冊、隅田郷、万延元年刊。
- 105 山田梅村『吾愛吾廬詩』六卷附録一卷、(江戸) 文苑閣発兌、慶應二年刊。
- 106 浅野梅堂『漱芳閣書画銘心録』甲篇二卷、写本、安政三年序、国会図書館蔵。
- 107 浅野長祚(梅堂)『眼福録』、写本、東北大学狩野文庫蔵。
- 108 長崎県編『明治二年清国人鑑札簿』、長崎県立長崎図書館編『幕末・明治

- 期における長崎居留地外国人名簿三」輯録、長崎県立長崎図書館、平成十六年。
- 108 平塚泰亮編『横浜八景詩画』、(東京) 秋錦山房、明治三年。
- 109 『木下逸雲五周忌書画会目録』(仮題)、刊本一冊、私家版、池原雀序、木下弘跋、明治三年。
- 110 林雲達『嶺南林雲達稿』、写本一冊、明治初期成立、長崎歴史文化博物館蔵。
- 111 多紀元堅『時還読我書』、佐藤元菫、明治六年。
- 112 大河内輝声編『羅源帖』十八卷(現存十六卷)、写本、明治八、同九年成立。
- 113 王宝平主編『日本藏晚清中日朝筆談資料 大河内文書』影印(杭州) 浙江古籍出版社、二〇一六年。
- 114 大河内輝声編『丁丑筆話』七卷、写本、明治十年成立。『日本藏晚清中日朝筆談資料 大河内文書』影印。
- 115 大河内輝声編『戊寅筆話』二十六卷、写本、明治十一年成立。『日本藏晚清中日朝筆談資料 大河内文書』影印。
- 116 森春濤編『新文詩』、明治八、同十七年。
- 117 玉置環斎『清人芸林姓名捷覧』十一冊、(東京) 碧雲山房、明治十年。
- 118 中井新六編『月琴楽譜』貞、群仙堂、明治十年。
- 119 河副作十郎編『清楽曲牌雅譜』、日刊杏村書舎、明治十年。
- 120 王藩清著『翰墨遺余香』、(名古屋) 伊藤兼道、明治十三年。
- 121 陳鴻誥著、原田隆造鈔『味梅華館詩鈔』、(大阪) 前川善兵衛、明治十三年。
- 122 竹内正信撰、王仁爵書『竹内渭川院墓碑』、明治十三年。藤浪剛一氏旧蔵。
- 123 『医家墓碑拓本集』第五十七軸、国立国会図書館蔵。
- 124 河村亀治郎編『清朝書画人名一覽』、(京都) 河村亀治郎、明治十三年。
- 125 本莊一行編『近世名家遊記文鈔』、(大阪) 浅井吉兵衛ほか、明治十四年。
- 126 王寅編、九富鼎校『冶梅石譜』、(大阪) 倉沢柱七、明治十四年。
- 127 水越成章『薇山摘葩』、(神戸) 熊谷幸祐、明治十四年。
- 128 土屋弘編『邂逅筆語』、(大阪) 土屋弘、明治十四年。
- 129 葉煒『夢鷗嚙語』、(大阪) 柏原政治郎、明治十四年。
- 130 小曾根乾堂『雲海先生字様前編』、(長崎) 私家版、明治十五年序。
- 131 柴田花守『画学南北辨』、(東京府) 島崎源兵衛、明治十五年。
- 132 王藩清『清国王琴仙書画状』、(名古屋) 山内六助、明治十五年。
- 133 王寅『冶梅蘭竹譜』、(大阪) 加島信成、明治十五年。
- 134 清水幣次郎編『古今名家新撰南画一覽』、(大阪) 清水幣次郎、明治十五年。↓古今名家新撰南画一覽①
- 135 王寅『歴代名公真蹟縮本』、(大阪) 加島信成、明治十六年。
- 136 坂口仁一郎編、王治本著『舟江雜詩』、(新潟) 井筒駒吉ほか、明治十六年。
- 137 水越成章『遊讀小稿』、(神戸) 船井政太郎、明治十六年。
- 138 谷壯太郎輯『新撰統和漢書画一覽』、(大阪) 高橋平三郎、明治十六年。
- 139 陳曼寿編『日本同人詩選』、(大阪) 土屋弘、明治十六年。王宝平編『晚清東遊日記彙編 中日詩文交流集』影印、上海戶籍出版社、二〇〇四年。
- 140 小栗憲一『豊絵詩史』、(京都) 西村七兵衛、明治十七年。
- 141 細川潤次郎『梧桐画話』、(東京) 細川潤次郎、明治十七年。
- 142 滝和亭『研香館画譜』四卷四冊、(東京) 滝精一、明治十七年。
- 143 水越成章編『翰墨因縁』、(大阪) 吉岡平助ほか、明治十七年。
- 144 股野琢編『介寿集』、(兵庫) 股野琢、明治十九年。
- 145 鹿田源藏編『古今名家新撰南画一覽』、(大阪) 赤志忠七、明治十九年。↓古今名家新撰南画一覽②
- 146 佐藤精明輯録『槎客筆談』、明治後期写本、関西大学図書館増田文庫。
- 147 王治本『新潟新繁昌記』、写本一冊、明治二十一年序、早稲田大学図書館蔵。
- 148 廣瀬藤助『古今名家書画景況一覽』、(大阪) 真部武助、明治二十一年。
- 149 吉川重俊編輯『古今名家新撰書画一覽』、吉川重俊、明治二十二年。
- 150 田能村直入『汲古山泉』二卷、(大阪) 芝川又右衛門、明治二十三年。

- 150 岡田篁所『滬吳日記』、(長崎)岡田恒庵、明治二十四年。
 樋口正三朗「現在今世家書画一覽」、(大阪)樋口正三朗、明治二十四年。
 151 初瀬川健増著、徐晏波閱『清国漆樹栽培漆液採取法』、(東京)有隣堂、明治三十二年。
 152 三島毅『中洲文稿』、(東京)二松学舎、明治三十一年〜大正六年。
 153 谷口豊五郎編輯兼発行『藍田遺稿』、(東京)私家版、明治三十六年。
 154 神木猶之助『妙跡図録』、(東京)私家版、明治三十八年〜同四十二年。
 155 服部轍著『養病詩紀』、(愛知県)私家版、明治四十一年。
 156 志村士轍著『五城詩集』、志村健雄編『三珠樹集 乾』所収、(仙台)早川活版所、一九一一年。
 157 志村時恭著、志村健雄編『東嶼詩集』、志村健雄編『三珠樹集 坤』所収、(仙台)早川活版所、明治四十四年。
 158 堀田璋左右・川上多助編『有徳院殿御実記付録』、(東京)国史研究会、大正五年。
 159 桜井雪館編『画則』、安永三年序、坂崎坦編『日本画談大観』上編輯録、(東京)目白書院、大正六年。
 160 桑山玉洲『絵事鄙言』、寛政十一年序、『日本画談大観』上編輯録。
 161 安西雲煙『近世名家書画談』初編二卷二編四卷三編二卷、天保元年〜嘉永五年成立、『日本画談大観』上編輯録。
 162 土井整牙『論画竹偶筆』、『日本画談大観』上編輯録。
 163 谷文晁『文晁画談』、文化八年序、『日本画談大観』中編輯録。
 164 野村文紹『谷文晁翁之記』、明治年間成立、『日本画談大観』下編輯録。
 165 白井華陽『画乘要略』五卷、天保二年序、『日本画談大観』下編輯録。
 166 西琴石『長崎古今学芸書画博覧』、明治十三年序、(東京)風俗絵巻図画刊行会、大正八年。
 167 浅野梅堂『寒檠瓊綴』六卷附録一卷、(東京)風俗絵巻図画刊行会、大正年間刊。
 168 谷口精一著、勝屋驂子駿編次『涓陽遺稿』、谷口鉄太郎編『藍田谷口先生全集』卷五所収、(東京)谷口鉄太郎、大正十四年。
 169 中川柳外『支那三百画家伝』、(東京)修文館、大正十四年。
 170 広瀬淡窓『懷旧樓筆記』、『淡窓全集 上巻』所収、(大分県)日田郡教育会、大正十四年。
 171 春木南湖『西遊日簿』、(東京)米山堂、大正十五年。
 172 河世寧(市河寬齋)著、市河三兼再聚、市河三陽校『瓊浦夢餘録』、市河三陽編『寬齋先生餘稿』所収、(東京)遊徳園、大正十五年。
 173 平沢元愷『瓊浦偶筆』七卷、新村出監修『海表叢書』卷六所収、(京都)更生閣書店、昭和三年。
 174 長崎史談会編『長崎名勝図絵』、(長崎)長崎史談会、昭和六年。
 175 木崎好尚編『竹田書翰全集』、(東京)帝國地方行政学会、昭和九年。
 176 中島広足『玉園山花宴記』、弥富破摩雄編『檀園文集抄』所収、(東京)新撰書院、昭和九年。
 177 吉村栄吉編著『吉村迂齋詩文集』、(豊中)マリンフード株式会社史刊行会、昭和四十七年。
 178 田邊八右衛門茂啓編輯、丹羽漢吉・森永種夫校訂『長崎実録大成 正編』、長崎文献社、昭和四十八年。
 179 壺井義正編著『附注影印 漱芳閣書画記』、(吹田)関西大学東西学術研究所、昭和四十八年。↓漱芳閣書画記
 180 長崎県立美術博物館編『長崎を訪れた中国人の絵画』、長崎県立美術博物館、昭和五十八年。
 181 渋谷区立松濤美術館編『橋本コレクション 中国の絵画 来舶画人』、渋谷区立松濤美術館、昭和六十一年。↓橋本コレクション
 182 大田南畝『大田南畝書簡』、『大田南畝全集』第十九卷、昭和六十四年。
 183 古河歴史博物館編『鷹見家歴史資料目録』、(古河)古河市教育委員会、平成五年。
 184

- 185 佐藤一斎『愛日樓全集』、東京都立中央図書館河田文庫蔵、『近世儒家文集集成』第十六巻影印、(東京)ベリかん社、平成十一年。
- 186 古河歴史博物館編『奥原晴湖粉本資料目録』、(茨城)古河歴史博物館、平成十四年。
- 187 長崎県編『外国人名員数書』、長崎県立長崎図書館編『幕末・明治期における長崎居留地外国人名簿 一』輯録、長崎県立長崎図書館、平成十四年。
- 188 長崎県編『外国人名調帳』、長崎県立長崎図書館編『幕末・明治期における長崎居留地外国人名簿 二』輯録、長崎県立長崎図書館、平成十五年。
- 189 長崎県編『外国人支那人名前調帳』、長崎県立長崎図書館編『幕末・明治期における長崎居留地外国人名簿 二』輯録、長崎県立長崎図書館、平成十五年。
- 190 川路聖謨著、藤井貞文・川田貞夫校註『長崎日記・下田日記』(東洋文庫一二四)所収、(東京)平凡社、平成十五年。↓長崎日記
- 191 大阪歴史博物館編『木村兼葎堂 なにわ知の巨人』、(京都)思文閣出版、平成十五年。↓兼葎堂展図録
- 192 若木太一・高橋昌彦・川平敏文編『長崎先民伝注解 近世長崎の文苑と学芸』、(東京)勉誠出版、平成二十八年。↓長崎先民伝
- 193 『朝日新聞』(聞蔵Ⅱビジュアル)
- ① 「支那国にて有名なる画工舒萍橋……」、明治十二年十月十二日付、朝刊(大阪)↓朝日新聞①
- ② 「先年我国へ来て墨客の名を伝へし……」、明治十三年六月十七日付、朝刊(大阪)↓朝日新聞②
- ③ (自由亭の広告)「清国人葉松石郭少泉、明治十三年六月二十二日付、朝刊(大阪)↓朝日新聞③
- ④ 「近頃中国との貿易を……」、明治十三年十二月十二日付、朝刊(大阪)↓朝日新聞④
- ⑤ (広告)「清国許子野書画揮毫」、明治十六年一月十二日付、朝刊(大阪)
- ↓朝日新聞⑤
- ⑥ 「清国劉瑞先といへる人……」、明治十六年五月三十日付、朝刊(大阪)↓朝日新聞⑥
- ⑦ 「清国劉瑞先氏」、明治十六年五月三十一日付、朝刊(大阪)↓朝日新聞⑦
- ⑧ 二昨日河内茨田郡守口町……」、明治十六年六月五日付、朝刊(大阪)↓朝日新聞⑧
- ⑨ (瀛萍社の広告)「清国朱印然先生」、明治十六年十一月十六日付、朝刊(大阪)↓朝日新聞⑨
- ⑩ (広告)「清国金吉石先生書画揮毫」、明治十七年七月四日付、朝刊(大阪)↓朝日新聞⑩
- ⑪ 「支那の金吉石と言へるは……」、明治十七年七月五日付、朝刊(大阪)↓朝日新聞⑪
- ⑫ (広告)「清国金吉石先生」、明治十七年七月五日付、朝刊(大阪)↓朝日新聞⑫
- ⑬ 「周墨禪画伯来遊」、明治四十三年八月二十六日付、朝刊(東京)↓朝日新聞⑬
- ⑭ 「美術界」、明治四十三年十一月二十三日付、朝刊(東京)↓朝日新聞⑭
- ⑮ (広告)「謹賀新年」、明治四十四年一月一日付、朝刊(東京)↓朝日新聞⑮
- 194 『読売新聞』(ヨミダス歴史館)
- ① 「二昨日築地新栄町に在留の支那人……」、明治十二年九月二日付、朝刊↓読売新聞①
- ② 「此頃築地入船町四丁目三番地……」、明治十四年二月十日付、朝刊↓読売新聞②
- ③ 「北京の僧墨禪」、明治十八年十月五日付、朝刊↓読売新聞③

④「清人墨禪周鎮岳氏手跡」、明治四十三年十月八日、別刷↓読売新聞④

中国側史料

1. 鄂爾泰ほか編『雍正硃批諭旨』、乾隆内府刊本。(北京)北京図書館出版社影印、二〇〇八年。
 2. 沙起雲「日本襍詠」、張潮ら編纂『昭代叢書』甲集卷二十六所収、道光十三年刊、(上海)上海古籍出版社影印、一九九〇年。
 3. 汪鵬『袖海編』、上海書店出版社編『叢書集成統編』第六十五冊影印、(上海)上海書店出版社、一九九四年。
 4. 馮金伯『国朝画識』、嘉慶二年成立、盧輔聖主編『中国書画全書』第十冊輯録、(上海)上海書畫出版社、二〇〇九年。
 5. 陳文述『画林新詠』、道光七年序、『中国書画全書』第十四冊輯録。
 6. 彭蘊璫『歷代画史彙伝』、道光年間成立、『中国書画全書』第十一冊輯録。
 7. 沈筠編『乍浦集詠』、(乍浦)潘文秀斎、道光二十六年刊。
 8. 江大林等纂修『蕭江家乘』十二卷、(蘇州)敦倫堂、道光三十年跋。
 9. 蒋宝齡撰、蒋苴生統『墨林今話』、咸豐二年成立、『中国書画全書』第十二冊輯録。
 10. 王韜『扶桑遊記』、光緒五年自序、鐘叔河主編『日本日記』、甲午以前日本遊記五種、扶桑遊記、日本雜事詩(廣注)輯録(長沙)岳麓書社出版、一九八五年。
 11. 王之春『談瀛録』、(上海)文芸斎、光緒六年。
 12. 李玉棻『甌鉢羅室書画過目攷』、光緒十年自序、『中国書画全書』第十二冊輯録。
 13. 王惕齋『中東語通捷徑』、光緒年間刊本。
 14. 頼襄撰・錢樸評閱『日本外史』二十二卷、(上海)上海說史堂、光緒十五年。
 15. 葉慶頤輯、袁祖志校『策齋雜摭』八卷、上海刊本、光緒十五年。
 16. 葉燁『扶桑驪唱集』一卷附録一卷、光緒十七年白下(南京)刊。王宝平
- 編『晚清東遊日記彙編—中日詩文交流集』影印、(上海)上海古籍出版社、二〇〇四年。
 17. 葉燁『煮藥漫鈔』、金陵、光緒十七年刊。
 18. 李筱圃『日本紀遊』、光緒十七年小方壺齋輿地叢鈔鉛印本。鐘叔河主編『日本日記』、甲午以前日本遊記五種、扶桑遊記、日本雜事詩(廣注)所収、岳麓書社出版、一九八五年。
 19. 王寅『冶梅梅譜』、上海五彩公司石印本、光緒十八年刊。尹瘦石等輯『中国古画譜集成』第十一卷輯録、(濟南)山東美術出版社、二〇〇〇年。
 20. 金邠『泉志校誤』、徐士愷輯『觀自得齋叢書』所収、石埭徐氏刻、光緒二十年。
 21. 徐珂編撰『清稗類鈔』、商務印書館、一九一七年。(北京)中華書局復刻、一九八四〜一九八六年。
 22. 孫振麟纂輯『当湖歷代画人伝』、(武林)当湖孫氏刊、一九三五年。
 23. 吳心毅『歷代画史彙伝補編』、(香港)博雅齋、一九七七年。
 24. 楊逸著、陳正青校点『海上墨林』、(上海)上海古籍出版社、一九八九年。
 25. 張壽鏞『約園雜著三編』、(上海)上海書店出版社、一九九二年。
- 日本語著書
1. 古賀十二郎『丸山遊女と唐紅毛人』、(長崎)長崎文献社、昭和四十三年。↓古賀著書①
 2. 古賀十二郎『長崎画史彙伝』、(長崎)大正堂書店、昭和五十八年。↓古賀著書②
 3. 大庭脩『江戸時代における中国文化受容の研究』、(京都)同朋舎出版、昭和五十九年。↓大庭著書①
 4. 大庭脩『日中交流史話』、(大阪)燃焼社、平成十五年。↓大庭著書②
 5. 王宝平『清代中日学術交流の研究』、(東京)汲古書院、平成十七年。↓王著書①

6. 徳田武『近世日中文人交流史の研究』、(東京) 研文出版、平成十六年。↓徳田著書①
 7. 唐権『海を越えた艶ごと 日中文化交流秘史』、(東京) 新曜社、平成十七年。↓唐著書①
 8. 松浦章『江戸時代唐船による日中文化交流』、(京都) 思文閣出版、平成十九年。↓松浦著書①
 9. 中尾友香梨『江戸文人と明清楽』、(東京) 汲古書院、平成二十二年。↓中尾著書①
 10. 徳田武『大田南畝・島田翰と清朝文人』、(東京) 浙江出版集団東京株式会社、二〇一九年。↓徳田著書②
- 中国語著書
1. 周積寅・近藤秀実『沈銓研究』、(南京) 江蘇美術出版社、一九九七年。
 2. 王中秀・茅子良・陳輝編著『近現代金石書画家潤例』、(上海) 上海画報出版社、二〇〇四年。
 3. 陳忠堂編著『中国近代人物名号大辞典』、(杭州) 浙江古籍出版社、二〇〇五年。
 4. 趙祿祥編『中国美術家大辞典』、(北京) 北京出版社、二〇〇七年。
 5. 俞劍華編著『中国美術家人名辞典』、(上海) 上海人民美術出版社、二〇〇九年。
 6. 張燁『洋風姑蘇版研究』、(北京) 文物出版社、二〇一二年。↓張著書①
- 論文
1. 市河三喜「長崎と米庵及び寛齋」、『長崎高等商業学校研究館年報 商業と経済』第十八卷第一号、昭和十二年。↓市河論文①
 2. 戸田禎祐「張梓と張崑」、『國華』八九一号、昭和四十一年。↓戸田論文①
 3. 鶴田武良「宋紫岳について——来船画人研究 一」、『國華』一〇二八号、昭和五十四年。↓鶴田論文①
 4. 鶴田武良「方濟筆富岳図と漂客奇賞図——来船画人研究 二」、『國華』一〇三一号、昭和五十五年。↓鶴田論文②
 5. 鶴田武良「費漢源と費晴湖——来船画人研究 三」、『國華』一〇三六号、昭和五十五年。↓鶴田論文③
 6. 鶴田武良「蔡簡・謝時中・王古山——来船画人研究」、『美術研究』三二二号、一九八〇年。↓鶴田論文④
 7. 鶴田武良「金郊について——来船画人研究」、『美術研究』三二四号、昭和五十五年。↓鶴田論文⑤
 8. 鶴田武良「伊孚九と李用雲——来船画人研究」、『美術研究』三二五号、昭和五十五年。↓鶴田論文⑥
 9. 鶴田武良「方濟筆富岳図と漂客奇賞図・補遺」、『國華』一〇四二号、昭和五十六年。↓鶴田論文⑦
 10. 鶴田武良「陳逸舟と陳子逸——来船画人研究 四」、『國華』一〇四四号、昭和五十六年。↓鶴田論文⑧
 11. 鶴田武良「王寅について——来船画人研究」、『美術研究』三一九号、昭和五十七年。↓鶴田論文⑨
 12. 鶴田武良「羅雪谷と胡鉄梅——来船画人研究」、『美術研究』三二四号、昭和五十八年。↓鶴田論文⑩
 13. 鶴田武良「何元鼎と梁基——沈南蘋の周辺——来船画人研究 五」、『國華』一〇六九号、昭和五十八年。↓鶴田論文⑪
 14. 鶴田武良「王克三と徐雨亭——来船画人研究 六」、『國華』一〇七〇号、昭和五十九年。↓鶴田論文⑫
 15. 山本巖「汪鵬事蹟考」、『宇都宮大学教育学部紀要 第一部』第四十五号、第一部、平成七年。↓山本論文①
 16. 郭秀梅「清医胡兆新の来日記録と業績」、『日本医史雑誌』第四十七卷第

- 17 西川武臣「幕末の日記を読む『横浜日記』に記された開港場」、『横浜開港資料館館報』第六十三号、平成十一年二月。↓西川論文①
- 18 陳東華「長崎居留地の中国人社会」、長崎県立図書館編集・発行『幕末明治期における長崎居留地外国人名簿Ⅲ』、平成十六年。↓陳論文①
- 19 王宝平「明治時代に来日した張滋昉の基礎的研究」、『アジア文化交流研究』第四号、平成二十一年。↓王論文①
- 20 王宝平「明治前期に渡日した浙江商人王惕斎の研究」、山田奨治・郭南燕編『江南文化と日本』資料・人的交流の再発掘』所収、国際日本文化研究センター、平成二十四年。↓王論文②
- 21 錦織亮介「来舶画人具とその資料」、『長崎歴史文化博物館研究紀要』十二号、平成二十九年。↓錦織論文①
- 22 柴田清継「巖谷一六と清国文人王治本・陳雨農との交遊」、『書論』四十三号、平成二十九年。↓柴田論文①
- 23 柴田清継「矢土氏澹園を訪れた清国文人…王治本と阮丙炎」、『書論』四十四号、平成三十年。↓柴田論文②
- 24 唐権「長崎歴史文化博物館蔵『書翰集』について」、武内恵美子編『近世日本と楽の諸相』所収、京都市立芸術大学、平成三十一年。↓唐論文①
- 25 島善高「副島種臣と銭子琴」、『大倉山論集』第六十五輯、平成三十一年三月。↓島論文①
- 26 唐権「江芸閣形象在近代日本の変遷」、北京語言大学主弁、閻純徳主編『漢学研究』第二十八集、二〇二〇年七月。↓唐論文②
- 27 錦織亮介「江戸時代の長崎来舶画人について」、『黄檗文華』第一三九号（二〇一八〜二〇一九）、令和二年七月。↓錦織論文②

附録二 来船清人一覧表

氏名	別名	字	号	字か号か不明	本籍	生没年	日本渡航・滞在時期	学芸ジャンル	日本人との交友関係	備考	出典
1 陳清斎					河南		寛文	画	広渡一湖		続長崎画人伝、古画備考、古賀著書②
2 俞立德		君成	南湖				寛文	書	北島雪山		長崎古今学芸書画博覧
3 謝重燕					温陵		貞享元	画			鶴田論文④
4 呉楨	中楨		雪樵	月蓬	莆田		貞享2	詩、書、画	林道栄、千朶性依、慈岳定深		長崎名勝図絵、古賀著書②、錦織論文①②
5 董元基		処方	立山		浙江		貞享3	詩文、行書、花卉山水			瓊浦雜綴、元明清書画人名録、古賀著書②
6 石弘猷	石考官	徽仲			龍邑		貞享	詩、書			和漢書画一覽、清人芸林姓名提要、錦織論文①②
7 黃公溥					福清		元禄	詩			長崎名勝図絵
8 潘紫雲					古莆		元禄	詩			長崎名勝図絵
9 談遇士					虞山		元禄	詩			長崎名勝図絵
10 林元中					泉州		元禄	詩			長崎名勝図絵
11 郭振綵					霞漳		元禄	詩			長崎名勝図絵
12 林中詔					興化		元禄	詩			長崎名勝図絵
13 黃如虬					霞漳		元禄	詩			長崎名勝図絵

14	沙起雲			喜亭	新安		元禄	詩		日本棟詠十六首あり、その序に「八閩沙起雲」とある。鉄心道胖「聖福八景」に和章を詠じる。	日本棟詠、長崎名勝図絵
15	陳雲				閩中		元禄	詩		鉄心道胖「聖福八景」に和章を詠じる。	長崎名勝図絵
16	周絡			勸山			元禄	詩文		進士の身分あり	長崎古今学芸書画博覧
17	蔣游峨			眉山			寛文	儒学			長崎古今学芸書画博覧
18	陸直圃			文斎			元禄16	医術			長崎古今学芸書画博覧
19	董友文		昌仁	愛山	福建		元禄～宝永	行書	丑山道白		統近世崎人伝、招印補正、元明清書画人名録、和漢書画一覽
20	呉賢		友尊	松亭	閩中		享保	行書			元明清書画人名録、和漢書画一覽、清人芸林姓名捷覧、長崎古今学芸書画博覧
21	謝時中			一味禪	玉樹、東山	福清県か	享保	道釈人物画、山水、花鳥			鶴田論文④
22	周鼎		有汾	禹川、雨川	閩中		享保	行書	松井元泰		大墨鷗壺集、元明清書画人名録、和漢書画一覽、清人芸林姓名捷覧
23	鄭亭鑑	廷鑑	廻瀾	湘亭	浙西		享保	詩、書	松井元泰		大墨鷗壺集、元明清書画人名録、和漢書画一覽
24	方璣				臥庵		享保	芸文	岡村魯耕		長崎名勝図絵、長崎古今学芸書画博覧
25	李用雲		大騰	随安			享保	墨竹	建部綾足		李用雲竹譜、漢画指南、絵事鄙言、続長崎画人伝、画乗要略、古賀善書②
26	尹羲		松亭	逸岩道人	茗城		享保	詩、書	松井元泰		大墨鷗壺集、元明清書画人名録、清人芸林姓名捷覧
27	尹思				茗城		享保	詩、書	松井元泰		大墨鷗壺集

28	鄭培	鄭維培	山如	古亭		苕溪		享保～元文	花鳥、行書	松井元泰	沈鉞門下	唐人墨製問答之記録、古面備考、続長崎画人伝、古賀著書②
29	翁志学		聖初	逸倉				享保2～11	行書			元明清書画人名録、和漢書画一覽、清人芸林姓名推覧、古今名家書画景況一覽
30	董晴		宜日	三橋、霽天		榕城		享保2～元文	草書	松井元泰		大墨鴻壺集、古梅園墨譜、元明清書画人名録、清人芸林姓名推覧、長崎古今学芸書画博覧
31	吳藏南					蘇州	1664～1719	享保4	医術、書		長崎にて死去	長崎古今学芸書画博覧、長崎実録大成正編、大庭著書①
32	沈陶		茗園			三呉		享保4～7	画			元明清書画人名録、和漢書画一覽
33	李昌謀							宝永7～享保16	画			雍正硃批諭旨、張著書①
34	董寧		宜一	可亭		閩中		享保5～元文3	行草、墨蘭	松井元泰		唐人墨製問答之記録、古梅園墨譜、絵事部言、古賀著書②
35	伊海		季九	莘野、莘野耕史、圃川、也堂、雲水伊人、養竹軒、桴鷗		蘇州山塘	1698～?	享保5～延享4	詩書画	清水伯民、細井平洲		好古日録、伊季九池大雅山水画譜、屠赤瓊々録、近世名家書画談、漱芳閣書画銘心録、古賀著書②
36	許笠庵							江戸中期	詩	馬玉壺、馬萬回		長崎名勝図絵
37	沈友鼎							江戸中期	詩	馬玉壺		長崎名勝図絵
38	王溥							宝暦7	文		逸叢記なる題の文章あり	長崎名勝図絵
39	朱来章					福建汀州府	1679～?	享保6～11	医術	栗本瑠見	日本渡航2回、彭城藤治右衛門七で診療を行う	雍正硃批諭旨、南京朱来章治験、周朱等復言、大庭著書①②
40	鍾廷儀			楓天				享保6～16	行書			元明清書画人名録、和漢書画一覽、清人芸林姓名推覧

41	沈陵		玉田	学齋		浙水		享保6～元文	文	松井元泰		古梅園墨譜、元明清書画人名録
42	陳振先					蘇州		享保6～元文	医師			崎陽採葉録、長崎実録大成正編
43	陳行徳							享保7	医師			大庭著書①
44	王応如					福建		享保10	陣法			雍正硃批諭旨
45	朱子章					福建汀州府	1673～1726	享保10	医師、詩	今大路親類、栗本福見、宇治多雲庵、間野春庵、柳如沢	長崎にて死去	朱子章答宇治多雲庵、朱子章問答、大庭著書①②
46	朱綾		佩章、端笏			福建汀州府	1662～？	享保10～11	儒学、詩書画	深見有隣		偶記、仕置方問答書、清朝探事、瓊浦偶筆
47	周南		岐来	慎齋		蘇州崇明県		享保10～18	医師、行書	盧岫拙、盧鸞、松井元泰		大墨鴻壺集、長崎古今学芸書画博覧、周朱等復言、千金要方、長崎先民伝
48	沈兆元			人長		西湖		享保10～18	—			元明清書画人名録、和漢書画一覽
49	孫廷相		太原、太原	輔齋		龍湖		享保11～21	行楷	松井元泰、大潮元皓	幕府に『大清会典』『大清律令』を講じる。	大墨鴻壺集、元明清書画人名録、和漢寄文、有徳院殿御実記付録、和漢書画一覽
50	趙天潢	趙潢	錫爵、泌陽	松陽、玉峯、杏圃		蘇州昆山県	1664～？	享保11～14	医師、行書	牛山香月、松井元泰		大墨鴻壺集、萬里神交、趙淞陽医技、和漢書画一覽
51	陳采若	張恒岫、張燦若				杭州	1693～？	享保12～16	弓		武拳の身分あり	対語彙録、馬医師唐人療治方書付、唐馬乘方補遺、大庭著書①②
52	沈炳	沈丙	灯嶂、登偉	雙菴		仁和	1673～？	享保12～16	草書、詩文、医師	旨亭遺本、田辺泰漢、盧千里、大潮元皓	①歳貢生の身分あり ②幕府に『大清会典』『大清律令』を講じる。	有徳院殿御実記付録、故唐律疏義釈文訂正、沈雙庵遺文、屋赤璋々録、和漢書画一覽、長崎名勝図絵
53	劉経先					蘇州	1698～？	享保12～16	馬医			馬医師唐人療治方書付、唐馬乘方補遺

54	比大成	楊某				広東	享保12~16	弓馬			馬医師唐人療治方書付、唐馬乘方問書、唐馬乘方補遺、雍正硃批諭旨
55	邱定元		永泰		古閩	古閩	享保12~19				元明清書画人名録、和漢書画一覽、清人芸林姓名捷覽
56	丁守訓		書岳、譚懷	石樓	武林	武林	享保12~19	書、篆刻	清水伯民、松井元泰		大墨鴻壺集、元明清書画人名録、和漢書画一覽、清人芸林姓名捷覽
57	宋伝二				蘇州	蘇州	享保	獸医		享保13年在長崎	雍正硃批諭旨
58	吳雁門			野農	平江	平江	享保14				元明清書画人名録、和漢書画一覽
59	鄭進城			東籬	三山	三山	享保14~18				元明清書画人名録、和漢書画一覽、長崎名勝図絵
60	沈猷		不鳳、筠圃	太元漁者			享保15	詩、書	松井元泰		大墨鴻壺集、元明清書画人名録、和漢書画一覽、清人芸林姓名捷覽
61	高秉鈞	高鈞	輔皇	舞亭			享保15~16	花鳥		沈銜門下	元明清書画人名録、古画備考、続長崎画人伝、清人芸林姓名捷覽、古賀書書②
62	徐嘉齡		鶴年	古狂	西溪	西溪	享保15	書			元明清書画人名録、和漢書画一覽、清人芸林姓名捷覽
63	沈銜		衡齋	南蘋	吳興双林鎮	吳興双林鎮	享保16~18	花鳥	熊代熊斐		蘭齋画譜、画則、山中人儼舌、歷代画史彙伝、文暈画談、画乘要略、沈銜研究
64	孫文雄		句飛、静濤	龍谿、両山、頻洲	浙湖	浙湖	享保16~元文4	草書	松井元泰		唐人墨製問答之記録、瓊浦遺佩、元明清書画人名録、和漢書画一覽
65	龔季肅		恪中、中父	秋塾	温陵	温陵	享保16~宝暦4	楷書	松井元泰		唐人墨製問答之記録、瓊浦遺佩、元明清書画人名録、和漢書画一覽
66	陳樹立		朗亭	雪門			享保16~18	行書			元明清書画人名録
67	劉琰		觀揚		浙湖	浙湖	享保16~18	行書			元明清書画人名録、清人芸林姓名捷覽

68	高乾		其昌	萍庵、含山		石門		享保	花鳥	熊代熊斐	①沈銓門下②渡日の時期は沈銓帰国後か	元明清書画人名録、蘭齋画譜、古画、統長崎画人伝、古賀著書②
69	沈鼎亨							享保18～19	行書	松井元泰		唐人墨製問答之記録、古梅園墨譜、和漢書画一覽
70	費漢映							享保18～？	画		戸雁図あり	鶴田論文①
71	費淵		漢源	若水		若溪		享保19～宝暦	山水、人物、花鳥	楊雅、建部綾足	費時湖の叔祖	紀行、漢面指南、費氏山水画式、鶴田論文③
72	徐樹三							享保20	花鳥			元明清書画人名録、統長崎画人伝、古画備考、古賀著書②
73	沈璠		魚石、草亭			蘇州		元文～宝暦	美術、詩、書	松井元泰	遊女中葉を寵愛す	唐人墨製問答之記録、古梅園墨譜、瓊浦遺佩、長崎名勝図絵、寒翠瑣綴
74	吳子明							元文3	書	松井元泰		古梅園墨譜
75	徐兆行							元文4	篆刻	清水伯民、松井元泰		唐人墨製問答之記録
76	汪永		繩武	誠齋		新安		元文4～安永4	行書、画	松井元泰、平賀晋民	清客十四家贈兼葭堂詩卷に題詠あり	唐人墨製問答之記録、元明清書画人名録、統長崎画人伝、漱芳閣書画記、瓊浦偶筆、兼葭堂展図録
77	趙許調		景清			西湖		寛保～寛延	詩、行書			瓊浦遺佩、元明清書画人名録、清人芸林姓名捷覧
78	金坤		寧仲、雪居			松江府		延享	行書、画			元明清書画人名録、瓊浦雜綴、古画備考
79	李仍吳	吳学孔	亦文	仁山		武林		延享2	美術、詩文、花鳥、山水			古賀著書②、長崎古今学芸書画博覧
80	諸葛晋		星三			南陽		延享5	人物、山水、花鳥			画則、絵事部言、元明清書画人名録、統長崎画人伝、画乘要略、古画備考

81	諸葛白 岩		宜齋	浣雲居士		晋江		寛延3	詩文、行 書、隸書、 山水	松井元象、伊藤 一元		袖海編、瓊浦遺佩、元明清 書画人名録、清人芸林姓名 掛覧、古賀著書②
82	龔紫興	子興	翎宸、紫卿	桂岩		泉州		寛延～明和	詩			瓊浦遺佩、元明清書画人名 録、和漢書画一覽、清人芸 林姓名掛覧
83	顧孝先		振生			上海		寛延～宝暦	詩、行書			瓊浦遺佩、元明清書画人名 録、和漢書画一覽、清人芸 林姓名掛覧、長崎名勝図絵
84	江成久					吳郡		寛延3	詩			瓊浦遺佩
85	林劭模		宏遠	卓山		福州		寛延3	詩、行草			瓊浦遺佩、元明清書画人名 録、和漢書画一覽
86	翁志		凱千					江戸中期	人物墨 竹、草書			拈印補正、元明清書画人名 録、続長崎面人伝、清人芸 林姓名掛覧
87	王従		純如	蓮翁				江戸中期	行書			和漢書画一覽、古今名家書 画景况一覽、元明清書画 人名録
88	王晋					蘆泐		江戸中期	画			和漢書画一覽
89	王揚烈	王夔	則光	金峰				江戸中期	行書			瓊浦又綴、古今名家書画景 况一覽、元明清書画人名 録、和漢書画一覽、清人芸 林姓名掛覧
90	黄元震		龍超					江戸中期	草書			和泉名所図会、拈印補正、 元明清書画人名録、和漢書 画一覽、清人芸林姓名掛覧
91	黄正宗		因可					江戸中期	書			元明清書画人名録、和漢書 画一覽、長崎名勝図絵
92	黄宣		載綸	玄齋		新安		江戸中期	書			元明清書画人名録、和漢書 画一覽
93	黄洮		住坡					江戸中期	草書			元明清書画人名録

94	黃道謙		逸齋、逸菴			福建		江戶中期	篆隸			元明清書畫人名錄、和漢書畫一覽、清人芸林姓名捷覽、古今名家書畫景況一覽、古今名家新撰書畫一覽
95	汪鵬清		景翻					江戶中期	行書			元明清書畫人名錄、和漢書畫一覽
96	何壽餘		景廉	研峯、月溪				江戶中期	行書			元明清書畫人名錄、和漢書畫一覽、清人芸林姓名捷覽
97	許自宏		君如					江戶中期	山水花鳥			元明清書畫人名錄、和漢書畫一覽、清人芸林姓名捷覽、皖長崎畫人伝
98	許漢		巨川					江戶中期	山水			和漢書畫一覽
99	金啓明		震旭					江戶中期	行草			元明清書畫人名錄、和漢書畫一覽、清人芸林姓名捷覽
100	嚴嶧		汝陽					江戶中期	行書			元明清書畫人名錄、和漢書畫一覽
101	顧昇		隅東、昇山			西湖		江戶中期	書			古今名家新撰書畫一覽、和漢書畫一覽
102	謝大痴			完城				江戶中期	山水			和漢書畫一覽
103	周麟							江戶中期	書			和漢書畫一覽
104	顧鳳翔		羽皇	桐村		浙江		江戶中期	行書			元明清書畫人名錄、和漢書畫一覽
105	施建煌		觀公					江戶中期	行書			元明清書畫人名錄
106	施見三			文山				江戶中期	行書			元明清書畫人名錄、和漢書畫一覽
107	施光登			榮菴				江戶中期	楷書			元明清書畫人名錄、和漢書畫一覽、清人芸林姓名捷覽
108	朱式敷							江戶中期	行書、人物画			妙跡図録、元明清書畫人名錄、清人芸林姓名捷覽
109	周堂		紅屏					江戶中期	行書			元明清書畫人名錄
110	徐有濟		伝舟					江戶中期	書			元明清書畫一覽

111	沈鏗		念齋			江戸中期	行書	元明清書画人名録
112	沈任	維衡				江戸中期	行書	元明清書画人名録
113	石長			吳興		江戸中期	行書	元明清書画人名録
114	薛翠			福建 榕城		江戸中期		元明清書画人名録
115	薛茂國	玉融				江戸中期	書	元明清書画人名録 清人芸 林姓名掛覧
116	張安	静圃				江戸中期	行書	元明清書画人名録、清人芸 林姓名掛覧
117	張書紳	雲亭	雲嶺			江戸中期	行書	元明清書画人名録、和漢書 画一覽、清人芸林姓名掛覧
118	張默齋	亦文		浙江		江戸中期		元明清書画人名録
119	陳昕	東白				江戸中期	花鳥	樂川館藏書畫落款譜、元明 清書画人名録、統長崎画人 伝、清人芸林姓名掛覧
120	陳元補	其昌				江戸中期	書	和漢書画一覽
121	陳楨	克士	竹侶			江戸中期	書	元明清書画人名録、古今名 家書画景況一覽、古今名家 新撰書画一覽
122	陳邦興	承一	雲濤	三山		江戸中期	書	元明清書画人名録、和漢書 画一覽
123	鄭永鐸	振興				江戸中期	行書	元明清書画人名録、清人芸 林姓名掛覧
124	鄭世儀		寅齋			江戸中期	行草	元明清書画人名録
125	鄭青黎	卓諸	徵雲	三山		江戸中期	行書	元明清書画人名録
126	鄭覃山	研生				江戸中期	書	元明清書画人名録、和漢書 画一覽
127	董敬亭		連翠臺			江戸中期	書	元明清書画人名録、和漢書 画一覽
128	董澗川					江戸中期		元明清書画人名録
129	董芝山					江戸中期	行書	元明清書画人名録

130	馬良					江戸中期	行楷		元明清書画人名録、清人芸林姓名捷覧
131	費孟恭			苕溪		江戸中期			元明清書画人名録
132	梅宗盛		晋齋			江戸中期	山水		元明清書画人名録、増補和漢書画一覽、清人芸林姓名捷覧、統長崎画人伝、古今名家書画景況一覽
133	潘秉衡			浙江		江戸中期	書		元明清書画人名録、和漢書画一覽
134	馮玄鑑					江戸中期	行書		元明清書画人名録、和漢書画一覽、清人芸林姓名捷覧
135	熊希華					江戸中期	楷書		元明清書画人名録、清人芸林姓名捷覧
136	熊齡					江戸中期	行書		元明清書画人名録
137	楊人龍			福建		江戸中期	書、画梅		招印補正、元明清書画人名録、増補和漢書画一覽、清人芸林姓名捷覧
138	陸紹棟					江戸中期			元明清書画人名録
139	林衍			三山		江戸中期	行書		元明清書画人名録、清人芸林姓名捷覧
140	林弘堪			福建		江戸中期			元明清書画人名録
141	林蔚然					江戸中期	行書		元明清書画人名録、和漢書画一覽
142	程如南			松江府		宝暦4～安永6	楷書	松井元象	古梅園墨譜後編、元明清書画人名録、和漢書画一覽、清人芸林姓名捷覧
143	邱亦昭			同安		宝暦5	行書		元明清書画人名録、和漢書画一覽、清人芸林姓名捷覧
144	沈鈺					宝暦5～明和元	行書	平賀晋民	清客十四家贈兼葑堂詩卷に題詠あり
145	黄世訓					宝暦6	行書		元明清書画人名録

146	張安			静圃		宝暦8	文	里東白		玄黄印圃
147	宋岳	紫岳、石耕	石耕山樵・雲亭		宝暦8	山水、花鳥	平野善次右衛門、宋紫石	長崎にて死去	西州投化記、宋紫石画譜、鶴田論文①	
148	王奎	王圭		美玉、古山	宝暦11	画			眼福録、元明清書個人名録	
149	程監生	玉田		金圃	宝暦12～明和元	楷書	松井元象		古梅園墨譜後編、清人芸林姓名捷覧	
150	邵詩南	禹航			宝暦12～明和3	行書		清客十四家贈兼段堂詩卷に題詠あり	元明清書個人名録、和漢書画一覽、清人芸林姓名捷覧、兼段堂展図録	
151	王履階			浙江仁和	宝暦	書、詩文	劉俊賢	初めは額商、天明3年まで総商を勤め、嘉慶2年に官商に選ばれた。	瓊浦雜綴、蘭言雅集	
152	黄龍	雲昇		新安	明和～安永	詩	松井元象		古梅園墨譜後編、元明清書個人名録、中国美術家大辞典	
153	吳震	右周	果庭、果亭	蘇州	明和元	楷書		題兼段堂扁額、清客十四家贈兼段堂詩卷に題詠あり	元明清書個人名録、清人芸林姓名捷覧、兼段堂展図録	
154	宋麗普				明和元	詩		清客十四家贈兼段堂詩卷に題詠あり	兼段堂展図録	
155	黄恪齋				明和元～2	詩		清客十四家贈兼段堂詩卷に題詠あり	兼段堂展図録	
156	顧照臨				明和2	詩		清客十四家贈兼段堂詩卷に題詠あり	兼段堂展図録	
157	項乾昇				明和2～安永2	詩		清客十四家贈兼段堂詩卷に題詠あり	兼段堂展図録	
158	許雲倬				明和3	詩		清客十四家贈兼段堂詩卷に題詠あり	兼段堂展図録	
159	費文楷					詩		清客十四家贈兼段堂詩卷に題詠あり	兼段堂展図録	

160	李熊									詩	清客十四家贈兼段堂 詩卷に題詠あり	兼段堂展図録
161	漁唐霞									詩	清客十四家贈兼段堂 詩卷に題詠あり	兼段堂展図録
162	汪鵬		竹里、翼蒼 (蒼・昌)	竹里山人		仁和	?~1783	明和元~天明 3		行書、画	平沢元愷	航海途中死去 袖海編、元明清書画人名 録、松浦著書①、山本論文 ①
163	方濟		巨川	巨濟、西園		新安	1736~?	明和元~寛政 元		画	見玉南柯、真村 蘆江、松浦東溪	近世名家書画談、漂客奇賞 図、理斎掃路旅日記、漂客 紀事、古賀著書②、鶴田論 文②⑦
164	游鯨		元周・機菴			福州		明和2~安永3		行草、詩	長久保赤水、長 久保陽谷、平賀 晋民	清橙唱和集、長崎行役日記、 元明清書画人名録、清人芸 林姓名掛覧
165	龔廷賢	龔標	克頭			温陵		明和3		行書、詩	長久保赤水、長 久保陽谷、平賀 晋民	長崎行役日記、清橙唱和集、 元明清書画人名録、清人芸 林姓名掛覧
166	王遂昌		世吉			山西汾州 府汾陽県		明和3~安永8		行草、詩	長久保赤水	清橙唱和集、元明清書画人名 録、和漢書画一覽、一話 一言、清人芸林姓名掛覧
167	張煥					南京		明和4		詩	長久保赤水、長 久保陽谷	清橙唱和集
168	張公侯			立川				明和4~8		楷書		元明清書画人名録、和漢書 画一覽
169	魏邦燦							明和7		行書、詩	山崎蘭洲	元明清書画人名録、蘭洲先 生遺稿
170	錢首乾					蘇州		明和7		詩	山崎蘭洲	蘭洲先生遺稿
171	劉子義							明和7		詩	山崎蘭洲	蘭洲先生遺稿
172	龔允讓	龔繼勝	與讓	遜齋				明和5~7		行書		①龔季肅倅、龔標の 弟②遊女桜路に詞 令を授ける

173	周王祿 恭先、 亥先	作菴、書光 池	仁山、小山、 澹園、雪川		浙江湖州 府歸安縣		明和6～安永9	行書	吉村迂齋			西遊日簿、調布日記、吉村迂齋詩文集、元明清書画人名録、和漢書画一覽、清人芸林姓名捷覽
174	陸炳			九峰、明齋	乍浦		安永6～享和元	詩文、淨瑠璃	十時梅里、吉村迂齋	吉村迂齋	①寛政2年梅里と筆談 ②遊女大町に淨瑠璃を習う ③長崎にて死去	崎陽筆話、長崎名勝図絵、吉村迂齋詩文集
175	許玉堂	真仙			武林		安永元～5	楷書				元明清書画人名録、和漢書画一覽、清人芸林姓名捷覽
176	程震生	赤城	柏塘		蘇州吳趨	1735～?	安永2～文化8	詩書画	三浦梅里、吉村迂齋、大江玄圃、春木南湖	吉村迂齋	遊女夕梅を寵愛す	西遊日簿、北窓瑛談、古賀著書①、松浦著書①
177	陳鳳占		林屋				安永4～天明元	行書	大田南畝			大田南畝書簡、瓊浦偶筆、元明清書画人名録、和漢書画一覽、続長崎画人伝
178	程蕤拙						安永5～天明5	書				新撰統和漢書画一覽
179	朱華		煙波散人	緑池	福州	1742～?	安永7～天明3	詩文	松浦東溪、武元登々庵、吉村迂齋、山根泰徳	吉村迂齋		贈八野君平七言古風一章朱華詩集、南溪先生詩集、古詩類徳、吉村迂齋詩文集
180	張崑	秋谷	墨香		杭州		天明4～8	墨竹	春木南湖、谷文晁	谷文	張莘（字は秋穀、西冷釣徒と号す）と同一人説がある。	西遊日簿、漱芳閣書画銘心録、論画竹偶筆、豊絵詩史、墨林今話、清朝珍宝渡船記、戸田論文①
181	呂宏昭				蘇州		天明～寛政	詩文、藥学	十時梅里、島津天錫	天津		呂宏昭薬品答、名山樓詠物百首、崎陽筆話、瓊浦雜綴
182	劉雲台				杭州		天明3～寛政12	詩、書	佐藤一斎	佐藤一斎	谷文晁筆兼霞堂之図に題詩	瓊浦遺佩、瓊浦雜綴、愛日樓全集
183	錢治	字文					寛政1～文化3	詩文	佐藤一斎	佐藤一斎	錢位吉の父	杏園開筆、愛日樓全集
184	程半樵						天明4	書				新撰統和漢書画一覽
185	陳晴山						天明5～寛政10	書画	吉村迂齋	吉村迂齋		吉村迂齋詩文集

186	劉錦堂			慶堂	天明5～寛政12	詩		瓊浦雜綴
187	孟世叢	涵九	森田	蘇州	天明5～文化2	仮名書、 画、詩文	吉村迂齋	各編隨筆、吉村迂齋詩文集、 長崎名勝図絵、古画備考
188	劉然乙			浙江省	1760～？ 天明6～文化元	書画		雲笠雨談、寧波高船漂着雜記
189	費肇陽	得天	晴湖、耕霞山、 耕霞使者	湖州府	安永～寛政8	詩、山水	春木南湖、十時 梅里、山川墨湖、 伊豆原麻谷、田 上菊舎尼	①費漢源の従孫 ② 天明8年南湖と筆談 ③寛政2年梅里と筆 談
190	楊逸雲			乍浦	寛政2	詩文	十時梅里	19歳で秀才、郷試7 回落第
191	朱鏡濤				寛政2	詩文	十時梅里	兼葭堂を詠む詩あり
192	吳鳳韶			蘇州	天明7	詩文	島津天錫、吉村 迂齋	名山樓詩集、吉村迂齋詩文 集
193	宋敬亭				天明7～寛政6	書画	司馬江漢	西遊旅譚、江漢西遊日記
194	周選			西山	天明8	書画		西遊旅譚、梨磯塵話
195	姚中一	祖申	蘭亭、自天、 古虞、青雲、 雲胆、香隴	杭州府錢 塘泉	1752～？ 天明	書	春木南湖、吉村 迂齋	天明8年南湖と筆談
196	黃文虎	定甫	鹿岡、醉月山 簪	吳興	天明8～寛政6	画	春木南湖、十時 梅里、吉村迂齋	西遊日簿、吉村迂齋詩文集
197	王蘭谷			錢塘	天明8～文化5	詩文、書	劉梅泉	改元紀行、瓊浦又綴、蘭言 雅集
198	俞致生			杭州	天明	画	春木南湖	西遊日簿、古賀普書②
199	沈瑞昌			杭州	天明	詩文	島津天錫、内藤 真甫、吉村迂齋	名山樓詩集、西行堂集詩歌、 吉村迂齋詩文集
200	朱衡	芝岡	味梅	古吳	天明～寛政	画	春木南湖、島津 天錫、十時梅里	西遊日簿、名山樓詩集、名 山樓詠物百首、崎陽筆語
201	周鏡湖				天明		吉村迂齋	吉村迂齋詩文集

202	樊紹堂				硯雲、渡香	江蘇長洲		天明	詩書画印	島津天錫	父・質煒（国学生）と共に渡日。	純印人伝、名山樓詩集
203	蒋菱舟						寛政8	詩文、琴	田上菊舎尼	長崎古版画「唐船図」に題詩	手折菊	
204	陳葦山						寛政2	書	十時梅里		崎陽筆語	
205	陳世徳					潮州府澄海県	寛政8～9	詩	志村五城、志村弘強	仙台漂着、翌年長崎經由にて送還	陳林詩集、五城詩集、東嶼詩集、以筆代言	
206	林光裕					潮州府澄海県	寛政8～9	詩	志村五城、志村弘強	仙台漂着、翌年長崎經由にて送還	陳林詩集、五城詩集、東嶼詩集、以筆代言	
207	陳諫光					潮州府澄海県	寛政8～9	詩	志村五城、志村弘強	仙台漂着、翌年長崎經由にて送還	五城詩集、東嶼詩集、以筆代言	
208	陸秋実						寛政～文化	詩	吉村迂斎、島津天錫、朝川鼎	谷文晁筆兼葭堂之図に題詩	吉村迂斎詩文集、瓊浦雜綴、蘭言雅集、染我室遺稿	
209	孫景雲				月塘	上元	享和2～文化7	詩	劉梅泉		蘭言雅集	
210	余崧		維嶽	秋亭		元和県	渡航記録なし	花卉、翎毛、山水、人物			国朝画識、面林新詠、漱芳閣書面銘心録、晁硯田斎筆記、一話一言	
211	劉景筠				夢潭、訥君	武林	1771～?	詩		長崎にて死去	瓊浦又綴、瓊浦夢餘録、瓊華鏡秀	
212	胡振		兆新	星池、侶鶴、藤門		呉県	1746～?	医術、書	市河米庵、大田南畝、秦星池、小川文庵、古賀穀堂	医と書と共に李良（雲梅）の弟子	清国医事問答、胡兆新治験方、胡氏筆語、郭論文①、徳田普書②	
213	王宇安			雲巢、瓊庵、理庵		杭州	享和3～文化5	詩	田能村竹田、勝田半斎		竹田書翰全集、半斎摘稿、竹田莊詩話	
214	張敬修	張省堂	秋琴	萍寄主人、葵花庵主		平湖	1744～?	詩	市河米庵、市河寛斎、大田南畝、劉梅泉		萍寄唱和、瓊浦夢餘録、杏園詩集、漱芳閣書面銘心録、一話一言、蘭言雅集、瓊浦又綴、蘭言雅集	
215	程雪香					蘇州	文化	詩書画	劉梅泉		蘭言雅集	
216	戴延介			靈山夢隱			文化	詩	劉梅泉		蘭言雅集	
217	顧時雷					東呉	文化	詩	劉梅泉		蘭言雅集	

218	顧震			若竹	古吳		文化	詩	劉梅泉		蘭言雅集
219	顧廷燾				古吳		文化	詩	劉梅泉		蘭言雅集
220	潘夔	用址			蘇州吳趨		文化	詩	大田南畝		洪容唱和、南畝集（瓊浦集）、 客橋隨筆
221	沈秋屏				古吳金閶		文化～文政	詩	劉梅泉	蘇州閶門外上津橋下 塘大街施家浜橋東塊 に住す	蘭言雅集、自述錄
222	王竹齋				浙江平湖		文化元	詩			百舌の草茎、市河論文①
223	許錫綸						文化元～2	詩			瓊浦又綴
224	錢德	位吉	戲堂、山山		吳興		文化元～7	詩文	大田南畝		洪容唱和、瓊浦又綴、杏園 詩集、蘭言雅集
225	江大來	秦交	稼圃		蘇州	1746～1826	文化元～文政	書、 画（山水、 蘭竹）	大田南畝、劉梅 泉、木下逸雲、 鉄翁祖門、菅井 梅岡、熊代秋琴、 斎藤秋圃	李良（雲海）に師事。 文化元年初渡、同5 年再渡、文政年間ま で渡航か。	蕭江家乘、杏園集、瓊浦雜 綴、瓊浦又綴、雲海先生字 樓前編、波古山泉
226	錢守和						文化元～14	書			瓊浦又綴
227	金筠書	蔭措	琴江、梨生、 花癡		蘇州府長 洲		文化4～文政 12	月琴、行 書	遠山荷塘、曾谷 長春、朝川善庵		略可法、竹田書翰全集、瓊 華競秀、三界居録、榮我室 遺稿、中尾著書①、市河論 文①
228	劉培原				當湖		文化元～文政 4	詩書	顧杏坪、劉梅泉		春草堂詩鈔、蘭言雅集、谷 文鼎翁之記、一語一言
229	夏振			雨村、雨 稼	江寧府上 元県		文化5～文政 12	書			瓊浦又綴、三界居録、瓊華 競秀
230	楊兆元			西亭	蘇州		文化5～天保 13		顧雪象、顧山陽		伝奇作書知編、西遊稿、乍 浦集録、詩選読我書
231	錢省三				古吳		文化6～8	詩、書	劉梅泉		蘭言雅集
232	姚謙齋			柳浦	姑蘇		文化7	文、書	武元登々庵		行菴詩草
233	徐荷舟				新安		文化8	書	三宅穉園	胡兆新門人	薄遊漫載、古面備考、市河 論文①

234	楊少溪					古呉	文化8～14	詩、書	劉梅泉	蘇州閶門内花鏡岸に住す	蘭言雅集、自遠録
235	王復初				銭唐		文化9～文政2				長崎古今学芸書画博覧
236	朱翊平	朱潜尧	厲君	柳橋、慕亭	平湖	1779～?	文化9～文政13	詩、書	遠山荷塘、田能村竹田、野田笛浦、野村篁園、藤田葵、朝川善庵ほか		竹田書翰全集、得泰船筆語、清水筆語、寒翠集綴
237	陸如金	陸金	品三		平湖	1786～?	文化～天保	行書、画	頰山陽、頰杏坪、衆雪象	長崎にて死去	下問雜載、老の祭言、西遊稿、瓊華競秀、三界居録
238	譚竹庵				杭州		文化～文政	詩文	市河寛斎	①義父は吳錫麒②杭州西湖良山門内貢院前威之巷德呈樓内門に住す	瓊浦夢餘録、自遠録
239	鄭妍				蘇州		文化	詩文	市河寛斎、菅井梅閑	蘇州閶門内玄妙觀前宮巷内に住す	瓊浦夢餘録、西遊稿、蘭言雅集、自遠録、市河論文①
240	楊秋棠				平湖	1779～1821	文化12～文政4	詩、書	朝川善庵	長崎にて死去	清船筆話、染我室遺稿
241	江大樞	江大樞、江大樓	印亭	芸閣、辛夷、玉堂生、十二瑤台使者、蘭陵郡人、蕙圃	蘇州	1772～1837	文化11～天保3	詩、書	市河寛斎、菅井梅閑、頰山陽、田能村竹田ほか多数	①江稼圃の族弟、江星奮の叔父②蘇州閶門外上塘街龐家街内恆善堂壁に住す③遊女袖咲、袖扇を寵愛す	蕭江家乗、三界居録、自遠録、書翰集、唐論文①②
242	傅士然				福建		文政	煎茶、清楽	田能村竹田		観生居月琴譜、竹田書翰全集、石山齋茶具図譜
243	楊西斎						文政	医術、書			長崎古今学芸書画博覧
244	顔崇達		涇南	吹雲主人・蓬山	蘇州府呉県	?～1831	文政元～天保2	詩文	田辺憲	①遊女管絵との間に混血児あり②道光11年源発船海難により死去	女々堂印譜、三界居録、瓊華競秀、古賀書畫①

245	陸雲鶴		振千	吟香、少筠、 攪青、小陸散 人		吳門		文政2～天保 12	詩文、行 書、花鳥 山水、園 芸	石崎融思、龜輪 軒斗遠	長崎にて死去	略可法、瓊浦筆語、草木花 葉写真図譜、竹田書翰全集、 瓊華競秀
246	徐天秀					福建		文政4	梵唄	遠山荷塘、朝川 善庵		染我室遺稿
247	李艷嗣					蘇州		文政4	清樂	遠山荷塘、朝川 善庵		染我室遺稿
248	周沼				安泉	寧波		文政4～天保 元	詩文、行 書	田辺憲、田能村 竹田		略可法、下間雜載、玄々瓷 印譜、竹田書翰全集、瓊華 競秀
249	顧少虎					南京		文政6～天保	書			伝奇作書初編、瓊華競秀
250	余東屏					蘇州		文政7～天保2	詩	梁山紅蘭	道光11年源発船海 難により死去	紅蘭小集、古賀普書①
251	王秋棠					乍浦		文政8	行書			瓊華競秀
252	嚴玉峰					福州閩県		文政8	行書			瓊華競秀
253	許康三					金門		文政8	書			瓊華競秀
254	陳諾言							文政8	書			瓊華競秀
255	鄭章雲			家裕、凝香		福州府長 樂県		文政8	行書			瓊華競秀、三界居録
256	傅日候					福建泉州		文政8	詩、楮書			瓊華競秀
257	李璋				少白	蘇州		文政10～天保 10		遠山荷塘、木下 逸雲、朝川善庵		染我室遺稿
258	陳熾	陳熾		逸舟、小鸚鵡 洲画史		浙江		文政10～嘉永 4	画	鉄翁扭門、小石 石林、三浦梧門	虞山派の流れを汲む	画学南北辨、栢園画話、鶴 田論文⑧
259	林徳建							天保	清樂	津田南竹、岩永 子成、塩谷雀風、 三宅秀蓮、三宅 瑞蓮、頼川連		中尾普書①
260	顧子英				俊卿	吳門		天保元～安政 4	書画	田辺憲	遊女高根との間に混 血児あり	玄々瓷印譜

261	沈鳳翔		于岡(子岡)、汝賢	淳香、蘋蘩		蘇州		天保2～弘化3	書、仮名書、詩文、清茶、画	頼山陽、中島広足、水野燭川、田辺蘇、広瀬淡窓	①国学生の身分あり②蘇州鴻城星橋巷内に住す③遊女花箱との間に混血児あり④長崎にて死去	書翰集、玄々窓印譜、遠思樓詩鈔、懷田樓筆記、觀生居月琴譜、古賀書書①、唐論文①
262	楊堂三					蘇州		天保	書	小曾根乾堂		玉園山花宴記
263	鈕心園							天保11～嘉永3	書		長崎にて死去	長崎古今学芸書画博覧
264	華蘭徵		昆田	心香				天保13～嘉永4	画	滝和亭		統長崎画人伝、辨香館画譜、長崎古今学芸書画博覧
265	顏煥鋪				吉泉、亮生、良星			天保15～嘉永5	詩、画			統長崎画人伝、古画備考、長崎日記、長崎古今学芸書画博覧
266	江元燦	江元珍	巖華	星奮		蘇州		天保13～安政4	書	川原廣谷	江芸閣の姪	蕭江家乗、清人芸林姓名提覽、漱芳閣書画銘心録、寒檠瑩綴、古画備考
267	楊少棠					平湖		天保～文久	書		楊秋榮俸、文久3年悟真寺にて2枚の扁額を書す	陳論文①
268	項抱珊							弘化～嘉永	書	鷹見泉石	道光甲辰年(1844)「楓所」の題字あり	鷹見家歴史資料目録
269	王蘭亭							弘化3～嘉永6	書	滝和亭		辨香館画譜、長崎古今学芸書画博覧
270	錢其炳				少虎			弘化4～安政7	篆書、隸書、詩	小曾根乾堂、滝和亭、山本梅村	錢泳の姪	辨香館画譜、吾愛吾廬詩、長崎古今学芸書画博覧、寒檠瑩綴、古賀書書②
271	戴春元		向榮	椿園				咸豐元在長崎	詩	小曾根乾堂、滝和亭		書翰集、辨香館画譜、唐論文①
272	程泓				岑山			江戸後期?	画			古画備考
273	沈寄梅					蘇州		嘉永5～万延元	医術		長崎にて死去	豊利船日記備查
274	趙宗敏					南京		文久元～?	書			清人芸林姓名提覽、西川論文①

275	何政霖			梅淵	杭州		文久	詩、書	山本梅村	公事を奉じて長崎に渡航	吾愛吾蘆詩
276	徐溶	徐世昌	雨亭	觀山樵者	平潮	1824～?	文久元～慶応3	書画(水墨山水)	山本梅村		吾愛吾蘆詩、鉄翁面談、当湖歴代画人伝、寒檠瓊綴
277	周昉経		彬如	広文先生	平潮	1816～?	文久2～元治元	経学	山本梅村、大江藍田		吾愛吾蘆詩、藍田遺稿、滙吳日記、長崎古今学芸書画博覧
278	王峻明	王道泰	克三	梅仙	乍浦		文久2～慶応元	書画(墨梅、山水、行草)	山本梅村		吾愛吾蘆詩、滙吳日記、当湖歴代画人伝、寒檠瓊綴
279	何筠如				広東順徳県	1833～?	文久2～明治12	書			談瀛録、月琴楽譜 貞、長崎古今学芸書画博覧、明治二年清国人鑑札簿
280	馮鏡如		哲華		広東番禺県	1822～1898	文久2～明治31	書画	股野琢	明治12年 広東会所 会長就任	歴代画史彙伝補編、清人芸林姓名掇覧、長崎古今学芸書画博覧、介寿集、陳諭文①
281	賀師章			鏡湖	海塩		文久3～?	詩	山本梅村	道士	吾愛吾蘆詩、乍浦集詠、長崎古今学芸書画博覧
282	潘冕軒						文久3～明治元	画			奥原晴湖粉本資料目録
283	林雲遼				広東四会県	1828～?	文久3～明治10年代	行書、文	三島毅	泰和号号主、広東会所初代総理。	嶺南林雲遼稿、中洲文稿、長崎古今学芸書画博覧、明治二年清国人鑑札簿、寒檠瓊綴
284	馬瑞				仁山		元治元年頃	画			長崎を訪れた中国人の絵画
285	陳子逸			小鸚鵡洲画史	蘇州	1832～?	慶応～明治	画	陳逸舟俸		滙吳日記、明治二年清国人鑑札簿、轉田論文⑧
286	高弁如	弁水			嶺南		慶応3～明治3	書画			木下逸雲五周忌書画会目録、奥原晴湖粉本資料目録、外国人名調帳、外国人支那人名前調帳
287	劉如模						江戸後期	書			橋本コレクション

288	王藤周						江戸後期	書		古今名家書面景況一覽
289	金華水		道庵				江戸後期	書		古今名家新撰書面一覽
290	陳玄興						江戸後期	書		長崎古今学芸書面博覽
291	陳楨		福建				江戸後期	書		瓊浦雜綴
292	鄭樹伯						江戸後期	書		瓊浦雜綴
293	費蘭楷						江戸後期	梅		古今名家書面景況一覽
294	傅雲麟						江戸後期	書		長崎古今学芸書面博覽
295	楊瓊江						江戸後期	書		長崎古今学芸書面博覽
296	李春苑		武林				江戸後期	書		滄人芸林姓名提覽
297	西溪						幕末明治	書		新撰統和漢書面一覽
298	謝秉忠	精一					幕末明治	書	耿青樓	新撰統和漢書面一覽
299	孫孟生						幕末明治	書		古今名家新撰南面一覽②
300	陳仁明						幕末明治	書		古今名家新撰南面一覽②
301	梅生						幕末明治	詩文書畫		古今名家新撰南面一覽②
302	李隱菴						幕末明治	墨竹		古今名家新撰南面一覽①
303	林朝鑄		古蘭				幕末明治	書		新撰統和漢書面一覽
304	友記						幕末明治	詩文書畫		古今名家新撰南面一覽②
305	程玉用						幕末明治	楷書		古今名家新撰南面一覽①
306	蔣子賓	雙鼎	吳興		1836~?		幕末~明治初期	詩		長崎古今学芸書面博覽、明治二年清國人鑑札簿、滬吳日記
307	陳瑛		福州		1832~?		幕末~明治初期	書		清國人鑑札簿(明治2)に登錄
308	唐讓臣		嶺南				幕末~明治初期	詩、書		木下逸雲五周忌書面会目錄
309	麟生		嶺南				幕末~明治初期	詩		木下逸雲五周忌書面会目錄
310	王鏡	鶴笙					明治	書	山本寛山	長崎古今学芸書面博覽、滬吳日記

311	王仁寿					明治	詩文、書			現在今世名家書画一覽
312	王線園					明治	詩文、書			現在今世名家書画一覽
313	黃一燕					明治	書画			現在今世名家書画一覽
314	吳丹墀	丹池			廣東府香山県	明治	書画	大河内郷声		現在今世名家書画一覽、庚辰筆話
315	徐新農					明治	書画			現在今世名家書画一覽
316	徐善侯					明治	書画			現在今世名家書画一覽
317	方純繼					明治	詩文、書			現在今世名家書画一覽
318	朱印然					明治	詩文、画	大橋万峰		現在今世名家書画一覽、朝日新聞⑨
319	萬碧山					明治	書		神戸源昌号支配人	長崎古今学芸書画博覧
320	陳瑞章		玉池		番禺	明治	詩文	平塚泰亮	華商	横浜八景詩画、扶桑遊記
321	梁文玩				廣東	明治前期	書画			清朝書画人名一覽
322	汪松坪				株陵	明治前期	詩文	本庄一行		東本願寺難波別院教師、師教校支那語科教員
323	王仁乾	健君	惕斎		慈溪県黄山村	明治3~43	詩文、日本語教育	大河内郷声		大河内文書、中東語通捷徑、王論文②
324	錢憚	子琴			無錫	1834~1883	書、詩文、医術			長崎古今学芸書画博覧、日本外史、島論文①
325	羅清	雪谷			番禺	明治4~9	指頭画	大河内郷声		颯鉢羅室書画過目致、羅源帖、中国美術家人名辞典、鶴田論文⑩
326	金邠	守正	芷山、芷衫、渠菴、曹門、尊古自牧、病鶴		蘇州もしくは彭城	明治4~?	詩書画印	森柳南、奥田抱生、永坂石棣	尾張藩校明倫堂教授	泉志校謄、支那三百画家伝、暹異日記、鶴田論文⑤
327	周愈				蘇州	明治前期	花鳥		明治6年から2年間東京外国語学校中国語教師	長崎古今学芸書画博覧
328	許鴻雪	子野	五湖、五湖山人		吳江	明治10年代	花鳥		大阪、奈良で揮毫	現在今世名家書画一覽、朝日新聞⑤

329	王藩清		体芳	琴仙		寧波府慈溪 滬興	1847～1898	明治10年代	書画	大河内輝声、石川鴻斎、伊藤兼道、加藤照、肝付兼武ほか	日清社中国語教師	翰墨遺余香、清国王琴仙書面状、丁丑筆話、戊寅筆話、王著書①
330	王寅				治梅	江蘇省江寧 江寧		明治10年代	詩書画 (花卉、人物、山水)	江馬正人、児玉少介、水越成章	日本に3回渡航	治梅石譜、治梅蘭竹譜、治梅梅譜、海上墨林、歴代面史叢伝補編、鶴田論文⑨
331	王治本		維能	秦園、不園居主人、吾妻過客		慈溪	1835～1908	明治10～41	詩書	大河内輝声、跡見花隠、阿部貞、石川鴻斎ほか多数	長崎にて死去	新文詩、舟江雜詩、新鴛新繁昌記、秦園筆話
332	胡震			小蘋		寧波		明治10～17	詩文、書画	水越成章、伊藤兼道、藤井啓		清染曲牌雅譜、薇山摘葩、現在今世名家書画一覽
333	衛寿金		鏵生	頑鈍道人		常熟		明治11～18	書	江馬正人、水越成章、跡見花隠		日本紀遊、扶桑日記、翰墨因縁、海上墨林
334	馮澧		雪卿	臥雲		慈溪	1844～1926	明治11～昭和2	書画(山水、花鳥、行草)	大河内輝声	東亜語学校教員(京都か)、満期後は大阪に寓居して揮毫	日本紀遊、戊寅筆話、約園雜著三編、現在今世名家書画一覽
335	貴一夔					粵東		明治12年在日	書画	水越成章		薇山摘葩
336	郭宗儀				少泉	嘉興府嘉善 善邑		明治12～15	書画	水越成章	慶應義塾中国語教師	翰墨因縁、朝日新聞②③④、読売新聞②
337	胡二梅							明治12～16	書画			近現代金石書画家潤例
338	舒浩		萍橋	平橋、則水道人		寧波鄞県	1841～1901	明治12	書画	大隈を遊覽		海上墨林、朝日新聞①、読売新聞①
339	胡璋		鉄梅	堯城子		安徽桐城	1848～1899	明治12～19、31～32	山水、花鳥	柚木玉郎、野村藤陰、永井久一郎	大隈を遊覽	清碑類鈔、歴代面史叢伝補編、鶴田論文⑩
340	張滋昉	張蘇昉	袖海	浮查散人		北京大興	1839～1900	明治12～32	詩文	岡田昌春、清生重章、副島種臣、長岡護美ほか	興亜支那語学校、東京外国語学校、東文学堂、東京帝国大学教授	会余録、樞客筆談、王論文①

341	王翰		柴登、蘭卿	天南通叟、甫里逸民、滌北逸民		長洲	1828~1897	明治12	詩文	栗本御雲、佐田白茅など多数		扶桑遊記、唐書書①、徳田著書②
342	鄭文程			儋石房主人	鵬萬	広州香山		明治13年在日	詩文	水越成章		嶺山摘穂、翰墨因縁
343	馮啓生							明治13年在日	清染	大河内輝声	華商	庚辰筆話
344	劉香琴							1813~?	詩	大河内輝声		庚辰筆話
345	王汝修	王仁爵	畢候			慈溪	1843~1895	明治13~15	書画	大河内輝声、石川鴻斎		竹内渭川院墓碑、嵯客筆談、茶園筆話
346	陳鴻誥		味梅	曼寿、乃亭翁、寿道人		秀水	1825~?	明治13~15	詩書画、金石	土屋弘、江馬正人、小野長願、谷喬ほか		味梅華館詩鈔、遯冠筆語、日本同人詩選
347	葉雄		松石	夢隲、鶯湖、信縁		秀水		明治7~9、13~15	詩文	水越成章、江馬正人、小野長願、土屋弘ほか	東京外国語学校漢語学科教師	夢隲筆語、扶桑圖唱集、煮羹漫鈔、翰墨因縁
348	蒲華	蒲成	作英、竹英	胥山野史、種竹道人		嘉興	1830~1911		書、画			近現代金石書画家潤例
349	葉慶頤		新農	策繁遊客		上海		明治14~15	詩文	大河内輝声		策繁雜蔗、茶園筆話、王著書①
350	劉瑞先							明治16	詩文書画	藤堂栄作	神戸滞在中に大阪で書画基会を開く	朝日新聞⑥⑦⑧
351	陳霖		慕會	雨農、雨農、紅蓮館主人		嘉興(原籍)、広州(客籍)		明治16~19	詩文、書	水越成章、股野琢		翰墨因縁、介寿集、現在今世名家書画一覽、柴田論文①
352	金吉石					上海		明治17	書画詩		大阪を漫遊	朝日新聞⑩⑪⑫
353	墨禪	周鎮岳				北京		明治25~?、同43~44	書、画	重野成斎、日下部鳴鶴、巖谷一六、岸田吟香ほか	東京中村楼で書画会・展覧会を開く	読売新聞③④
354	徐晏波					広東省		明治32	書画、文			清国漆樹栽培液採取法
355	阮丙炎	縷昌	舜琴	颯滄		慈溪		明治40~41	詩	服部敏		中国近代人物名号大辞典、養菊詩紀、柴田論文②